

川柳の雑記

麻生路郎☆主宰



五月號

No. 384 Pensoj flugas trans la land-limon
THE SENRYU ZASSHI

川柳雑誌社主催 本社五月句会

日時 五月七日(木)午後六時
場所 文楽座別館三階(洋間)

兼題

- 市電道頓堀電停南へ二〇米西側
市電日本橋一丁目電停北へ百米西側
(入口は右側から階段を上ってください)
- 「砂」浜 (三息) 麻生 茂乃選
 - 「かんしやく」 (三息) 清水 白柳選
 - 「テレビ」 (三息) 丸尾 潮花選
 - 「実力」 (三息) 八木 摩太郎選
 - 三題(当日発表)

席話 中島 生々庵
柳話 呈賞 各各題天位 ☆兼題「砂浜」天位に不朽洞賞
費百円

6月 ちくはく・菓子折
兼題 油カバ・ぼろくそ
* 投句だけの方は郵券
三千円同時(〆切五月五日)

大阪市住吉区万代西五丁目廿五番地
川柳雑誌社句会部
電・住吉 6084

麻生路郎著 六月中旬刊行

新川柳鑑賞

川柳の味い方・四百数十句

★昭和三十三年度の「川柳鑑賞」を刊行して以来、いまなお執筆を続
つり」の記念出版として、「新川柳鑑賞」を刊行することにした。曾て東京の
「新川柳鑑賞」は新川柳のよさを、
広く世間に味ってもらいたいため、
と、川柳は作っているが、も一つ
巧い句が作れないという人たちに
読んでもらいたいために、「川柳鑑賞」の昭和廿八年十月号から連
意味に於ては「川柳とは何か」の

価二五〇円
送費三三〇円
B六版
二五〇余頁

姉妹篇だと言えよう。初心の方は
むしろ本書を玩味読されてか
ら、「川柳とは何か」をお読み願
えれば作句上大いに役立つので
ないかと思っている。何れにし
ても「川柳とは何か」と併せて味
読していただきたい。

★本書では現代作家の四百数十句
の名吟佳句が鑑賞されて居り、単
なる読物としても好適のものであ
る。即刻申込まれたい。

(路郎生)

発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区万代西五丁目廿五番地
電話 大阪 六〇八四
郵政口座 振替 七三三〇

特別課題 「親譲り」 麻生路郎選

(〆切 6月20日。なお詳細は次号で発表)

川柳まつり

優勝楯に挑む川柳コンクール
* 日時 七月十三日(日) 正午開会
* 会場 大成園(電話) 〇五二三八ノ九
南区大生寺中五丁目二六
◎斎橋大丸北ノ辻東五〇米北側

司会 川村好郎
開会の辞 上井文雄
兼題 夕溜み 中島生々庵
笑し振り 北川春渠選
出直し 西尾 葉選
久し振り 市場 茂食子選
若木 多志選

★投句だけの方は郵券三千円同時
〆切七月十日
★用紙は京20センチ、横3センチの切交
使用のこと
3題当日発表(各題2句)

席話 特別課題「親譲り」発表 麻生路郎選

呈賞 *各題天位 *春単選天位不朽洞賞
★総合得点二十位まで(同点は先着順)
賞 *特別課題「親譲り」発表者
賞 *優勝者西園の会に優勝楯を贈る
優勝楯は明年七月返還、川柳支部、華
文部に属しない作家が優勝した場合、川
柳雑誌社の獲得となる。

*余興 セシニエ
*川柳放談会 古方・柳里・豆萩
閉会の辞 西 いわを

*会費 百五十円(参加者全部に高部館葉う
ちわ進呈)
*親親要 会費三百五十円(同会場)

大阪市住吉区万代西五ノ二五
川柳雑誌社
電住吉 六〇八一

不朽洞句帖

—— 麻生路郎

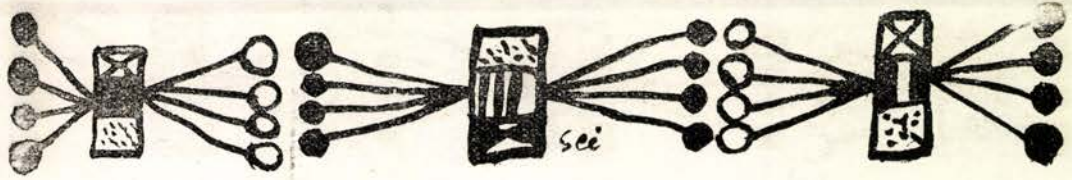
そんな男がいたのかと思う 選挙
汚職でも役目果たした気でいてた
受付をのぞむ男の元子爵
悪党の後裔をむしろ誇りとし
彼の話術にその妻も被害者の一人

文楽で一緒に首を振るも春
見おろして通用門の恋見つけ
必要に応じ男をとり換えた
謹厳そのものだと言われる人がバチンコ屋
岡田雅の子氏が倉皇等の後を継ぐて学位を受く
てれることないさ 医博の名刺出来



五月号目次

題 字……………	麻生路郎
表 紙……………	野尻 弘
不朽洞句帖……………	麻生路郎(一〇)
川柳における語彙と かなづかいについて	北川 春巢(二〇)
川柳歳時記……………	木谷 竹荘(三三)
新川柳鑑賞……………	麻生路郎(二二)
日赤阿武山の人々……………	丸尾 潮花(三〇)
句評リレー……………	葉・白星・光郎(二六)
	九呂平・一瓢
痴人の柳信……………	木山 遠二(三三)
緑蔭三題……………	東野 大八(二五)
不二句抄……………	(三三)
ああ宮田不二氏……………	川村 好郎(三三)
不二氏のこと……………	武部 香林(四〇)
奥様のこと……………	武部 若菜(四四)
わが家の句……………	諸 家(二六)
郷士の先哲をしのんで……………	佐内 隆文(四五)
業平の立田越え……………	富士野鞍馬(三三)
ずとづの使いかた……………	不二田三夫(一九)
★	
川 柳 塔……………	麻生路郎選(一〇)
同 舟 近 詠……………	諸 家(一九)
近 作 柳 緯……………	麻生路郎選(一〇)
	北川春巢選(二〇)
一路集 <small>【急所】</small>	中島生々庵選(二六)
女同土 <small>【女同土】</small>	福田安夢選(二六)
声 <small>【声】</small>	那谷光郎選(二七)
金 泥 集……………	麻生段乃選(四〇)
入門 講 一 会……………	戸田 古方(四四)
各 地 柳 壇……………	(四一)
不朽洞会から……………	(三九)
柳 界 展 望……………	(三八)
青 本 赤 本……………	(四六)
周 辺 雑 感……………	(四六)



定石通り花の師匠と云う看板

定年送別会

岡山県 直原 七面山

澄し給うなセックスの世に

お色気の外に話題を持たぬ人

コーヒー五銭の頃の話をまた初め

斗病の壁に石原裕次郎

敬老会へ来ぬ管妾を二人持ち

鳥取県 河村 日満

酒で消毒してる身体も風邪を引き

有料にしてはヘルンの記念館

大阪市 安岡 珊枝郎

売った身を忘れて今日もストライキ

耳遠くなった夫をけなるがり

倉敷市 木村 千容

口答え小さいながら母に似て

御寮人家風はちゃんと護持なさる

倉敷市 田垣 方大

素直ではヒゲのこげんがさがるかね

盃を洗うて話にのってこず

加賀市 野村 味平

鉛筆の芯性格を試めされる

屋根葺きがひよいと見つけた昼の火事

大阪市 木村 水堂

落陽は屋根にかかって欠け始め

送り出す胴上げまでもしてくれる

大阪市 西 いわを

白い眼が男の心を刺し通し

恋よ曲者金も心もすり減らし

砂にかく好きな字波と根くらべ

新発田市 高沢 一浪

将を射るつもりゴルフに凝って見せ

ホノルル市 築山 快夢起

キャデーとかに球拾わせる好い身分

近頃は愚妻もゴルフと触れ廻り

リンクでは手形の事に触れず置き

ワイマル 羽佐 閏柳葉

益裁のような小粒の才子殖え

労資とも掛値の多いミーチング

伴もう明治の意見軽く逃げ

堺市 吉田 圭井堂

客種に知事もされてるにぎりずし

認知さす男に迷ういわた帯

防府市 長野 井蛙

そちら様次第とボスにうそぶかれ

ホルモンを打つても もえがらもうもえず

税務署へ這入った途端に寒気がし

兵衛県 小西 無鬼

豊中市 戸田 古方

つま揚枝つくってくれる人もあり

餓けのことは足るを知るでよし

何のバッチあんだも菊に似たバッチ

西宮市 若本 多久志

毆っても欲しい夫は詩に生きて

宴会もゴルフも仕事にして社長

米子市 三嶋 美笑

派手好きの家の空気も変りけり

皮靴の手入れ久しく忘れとり

散歩した帰り小銭で花を買い

散歩するコース工事が引戻し

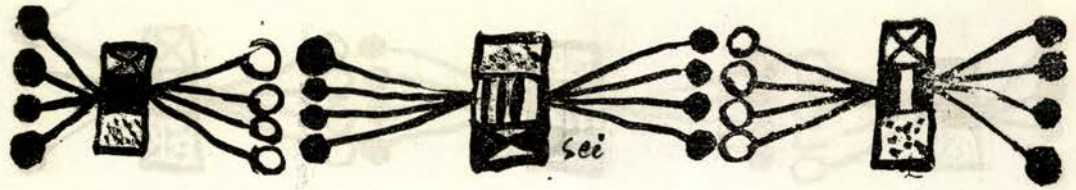
大阪市 正本 水客

宝くじ見向もしない歩きよう

一番になった子黙って風呂へゆく

大阪府 丸尾 潮花

添乳するように女も横になり



年度末うちの世帯も赤字なり

高槻市 福田 丁路

心なき人にハンスト指さされ

通り魔が現れそうな春の宵

借金を忘れ釣竿肩にする

大阪市 真鍋 一瓢

百万貯めてユーモアも詩も知らず

今時の子のままごとは父も炊き

大阪市 後藤 梅志

女事務やっぱり五十五まで行き

米子市 小西 雄々

よく見ればバター屋も捨てる物があり

体臭を消す香水と知らずほめ

午前二時男だました服をぬぎ

ささやきを聞きかえしてる敬老会

大阪市 吾郷 玲人

良い処ばかり視察を連れ歩き

洋服に下駄は質屋へ行く姿

座布団を自分で探して座る客

大阪市 山川 阿茶

墓まいり思わぬ梅見して帰り

大型の車を狭い路へ買い

幽霊が出そうなホテルの出入口

大阪市 金井 文秋

三女天高入試

もし凶が出たらとみくじよう引かず

合 格

はいれたか受話機に笑顔うつるよう

小松市 伊藤 茶仏

選挙からきおった父の肩が落ち

よく喋る男の葉書なつていず

加賀市 那谷 光郎

寄せ書へ達筆二人分を占め

酒癖を下戸に頼んで送り出し

大阪市 北川 春巢

入社して手はじめ酒のけいこする

飛行機をまだあぶながる母がいる

同郷の由で美人に訪ねられ

年不惑パチンコもやり株もやり

岡山県 浜田 久米雄

お銚子がついて日曜大工やめ

年金で月ぎめの酒とどけられ

岡山市 逸見 灯竿

年金がついた春日の椽に座し

乾杯の分だけ下戸はやつと飲み

波の音団体宿の夜が更ける
早春へ歩巾の揃うニュールック

大阪市 清水 白柳

くしゃみする父へ宿題聞きにくる

むつまじい母娘で礼を言い合うて

尼崎市 徳永 鬼美

仕事への熱がパチンコ程に出ず

母親について子供も反主流

煉炭を大分残して冬がすみ

大阪市 武部 香林

人生もいつしか午後の陽射しにて

幼稚園別れのように見送られ

出雲市 尼緑 之助

ベッドつくる鼠か新聞さいており

ブリッジにマンボズボンは子を背負い

何故酔わぬ酒かと芝居めいてくる

女中さんへあたりちらしてこれも旅

鳥取市 杉谷 湖山

宣言文の黄色い声に万才す

方言が飛び出し部下に親しまれ

京都市 大鶴 喜由

富士遠く橋の高さに及ばざる

女黄ばむ頃云いたいことを云い

尼崎市 小林 文月

友でない友が苦境をささえくれ
右側を歩いていても厄に遇い



お彼岸に明治ののそぎ見て帰り
キスもせずフレンドとして二年経ち

呉市 林野 麿 光

魔法瓶の空が重たい山を降り
春の土ねじ鉢巻も唄になり

岡山県 福島 鉄 児

貧富の差が兄弟を疎遠にし

岡山市 服部 十九 平

失恋へ聖書空疎な語を並べ

簡素化というのに町議みな招き

失業してから歌手の名を覚え

正直に言うがと前置きしてけなし

失恋へ猫の背伸びが勘にふれ

熊本市 有働 菜 春

電建の写真見ている空ッ風

先生になんかなるなと恩師言い

四月十日花嫁さんを見に出ましょ

高知市 大西 迷 窓

幸福への招待などと売る菓

新生をかうてもうて子守とは

広島市 山田 季 賛

次に建つビルも背丈が伸びており

薬局で出会えば彼女も風邪を引き

大阪市 山本 葉 光

幸福な結婚ブームへ遠く生き

倉敷市 水谷 谷 水

生活の詩だ汚職族にはわかるまい

くちぎがない男達よと老嬢の

そのてんは後家ですものとはばかり

課長いくらだしたと幹事また聞かれ

倉敷市 相原 一 善

指切をしといて女米て呉れず

不幸続き笑ういとまもなかりけり

岡山県 田村 藤 波

一年忌まだ下手人が捕まらず

お手盛りの出来る政治家辞められず

岡山県 岡田 夜 潮

昭和の恋神風式によりかかり

鶴の一声に人権捧呈し

玉田市 臼井 三 林 坊

子のけんか子の生態を見る如く

保険屋如きに皆まで云っちゃまい

茨木市 下山 清 潮

山を越え田甫を渡り池のつり

秀才で来たがさっぱりあきまへん

五十三次見おろす旅がして見たく

岡山県 本田 恵 二 朗

老妻の愛情清水の湧く如く

くいしばる力ほどには走れない

大きらいなどと焼芋けいべつし

ここからは運にまかせてこせつかず

京都市 松川 杜 的

紋付を着ながらあいさつ教えられ

二兎を追い一兎も得ずに四十三

川西市 竹内 圭 三

アラ白髪あるわと妻の大げさな

テレビジョン臉のたるみまでうつし

下宿屋がもと遊郭で落着かず

検査官裸踊りが得意なり

尼崎市 藤井 春 日

津太夫に泣かされて来る老夫婦

まあこの娘あけすけでしてと恐れ入り

メートルで答え社長に叱られる

愛情を試めたのんよと水臭し

ホテルまで来ておあすけにされました

満員車座席は携帯ラジオかけ

岡山市 津田 麦 太 楼

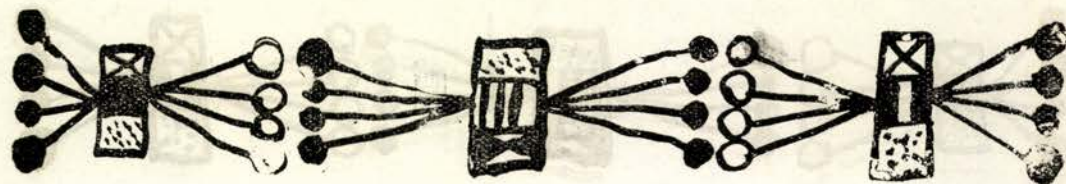
お隣りの褒めもの地味に着る二号

堺市 高崎 雄 声

定年後無口無口の日が続き

果しなく続く休みをもてあまし

岡山県 永松 東 岸



覚え書き程度の鍵のない日記

受けて立つ横綱と言う世ではなし
対岸の火事ではないぞストライキ
釜ヶ崎ここらあたりはよそ見せず

倉敷市 野田素身郎

貧乏もいいな愛してさえいたら
こうはしておれず子供ができるらし
残業々々待つてる妻も疲れきり

大阪市 木村十悟

坊んさんの顔見てそうそう命日や
災難やナァーと放免迎えられ
恐妻でよし生さぬ仲波たたず

大阪市 伊達堰子

べんべん草抜いたあたりが漏り初め
葬式を待ってた様な雨となり
焼香になってわんぱく見当らず
案の定幼稚園から断われ

天王寺にて

永らえばセメントベニヤの塔が建ち

大阪市 不二田一三夫

性っかちでサンドマンにもようならず
妻の目にぼくがこどもに見えるらし
ゆう然と拾ろたタバコへ火まで借り

兵庫県 酒井ひか平

緬羊へ日本の山河小さすぎ

誰に着る喪服か妻は買いたがり

大阪府 深見雅堂

結局は職安だけを頼りにし

三度目は風呂敷だけの嫁が来る

神戸市 野村初甫

老眼鏡はずして叱る声になり
風引きのパパはねんねこ着せられる
就職をしてから希望小さくなり

岡山県 池田古心

台風の後にも似たり孫の留守

東京都 石居高志

代償にしては悲しい秘書の服
化粧品銘柄選ぶ年令かいな

大阪府 早川清生

他所者のかなしき景色ほめて住む
挨拶の不得手な客は子をあやし
長欠見訪えばねんねこ着てかくれ

大阪市 武部若菜

歯科の机に歯が沢山笑った
児を抱いて自己の主張もくずれ去り

堺市 辻圭水

ひがんではいないが周囲がそんな目で見る
冗談も解せぬ妻と居る不幸

加賀市 中松恒雄

手品見るように女は騙されて

電休日家庭電化はストになり

二号邸の隣のあばら家に住まい

西宮市 小浜牧人

留守番の父へ小銭の要る日なり
共学のテニスコートへ春が来た
ゴルフだ踊りだ遺産いつまで続こうぞ

大阪市 菱田満秋

落第へ親も力が足らなんだ

岡山県 池上知恵美

いいところで夢も舞台も幕になり
心まで濡れそう告別式の雨
白樺をけずっただけの遭難碑

大阪市 橘高薫風子

施設の子盛切り飯のほか知らず
深夜喫茶の影の一つになっている

奈良市 宮口笛生

ネギ坊主畑の隅まで来てた春
春晴れて汽車も重たい音になる
花吹雪笠置通過の機関車に

ハイボール機嫌の女美しく

一日一善と云う本を盗られ
大阪市 西川晃



悪銭が良く身についた議員章

釜ヶ崎風景

世に敗けて酔うてどなって路で寝る

偉い世渡り盗人のピンをはね

岡山市 林 葵丘

青畳しばし倦怠忘れさせ

分譲地散歩が蛇におどかさ

神戸市 仲 どんたく

絵だけ見る外国雑誌持ち歩く

新婚はまめにマッチも貰って来

私鉄スト御協力させ歩るかせる

平田市 久家代 仕男

嫁とって悔ない父にして逝かせ

お浄土へ嵐の待たぬ父であれ

大阪市 本多 柳志

刑事室前科三犯男前

松屋町あきらめきれぬフラフラ

大阪市 大谷 月都

ゴミ箱が燃えて居るのも春のこと

商用に来て加茂川の水の色

自信ない料理は笑って膳に出し

下役はカンシヤク玉の替りもし

岡山市 江国 幽谷

山の手へ住んで敬語のむずかしさ

階段を一つとばして娘が上り

岡山市 光 好陽子

政治家になる子もあろうランドセル

肩書を三つも持って主婦多忙

西宮市 河相 すゝむ

なにが気に入らぬか箱いがんで出

トルネルがやけにうるさい一人旅

やり手すぎる兄が母には気に入らず

西宮市 野呂 鶴汀

母の死へ父脱殻の様になり

又逢いに行ける用事を残して来

本妻へ病む身になって戻って来

西宮市 樋口 舟遊

おとくいの宗旨かえろにちと困り

新潟県 高野 むじな

砂売る人も浜代が要ると云う

やとと東京になれて便りも来なくなり

恋をして相談欄も読んで見る

大阪市 岸川 漣

美しい自信素顔のまま逢い

ドンサリと晴着へはすむナフタリン

案内所懐具合に触れてくる

大阪市 欄 蘭

退職金税金きっちり引いてあり

大阪市 石倉 旅風

待ち呆け時計のネジをまたも巻き

街のピラ呉れねば呉れぬで腹を立て

好きだからこそサボテンに刺されもし

そこ迄は気附かなんだでけりがつき

大阪市 魚住 満潮

当面の慾は二間の家が欲し

持つ者の思いのままの世となりぬ

堺市 田中 狂二

古疵にふれず再婚すすめられ

臨終へ愛の勝利に泣く二号

大阪府 林 昌男

子に毒な記事は弁当の包みにし

申告書子供の年をまた忘れ

以上総代へしすしずりボンの子

岸和田市 津田 千舟

嫁く仕度昼は洋裁夜は和裁

久し振り子供墮ろしてきた芸者

愛媛県 村上 旭童

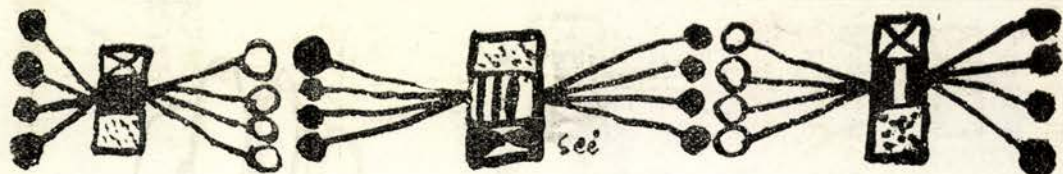
百姓に朝から新聞よめる雨

長男出生

隣りへもひびけ男の産声ぞ

倉吉市 大前 鳴枕

春や春図書館に来て眠りこけ



男ならなどと妻にもおどかさ

鳥取市 北村 三步

人の子であること労資忘れかけ

法津が守ってくれるで気に食わず

大小のある両輪と気づかざる

神戸市 傍 島二静 馬

嫁入りに華道免状まけてやり

投資したつもりのマダムに逃げられる

わたくしの趣味は仕事と大きく出

大津市 杉 原 吟 女

埋立もトラククならべて昼になり

アパートも立離とどき初節句

笠岡市 木 山 遠 二

当世に向かぬ厳格ようやめず

親馬鹿と云う言葉あり有がたし

老夫婦黙って居てもじっくりし

大阪市 村 山 前條改め 光 輪

袈裟拝領したが十誠守りかね

大阪市 平 沢 保 美

ニュースタイルも空乗のお蔭苦笑する

洗濯機あんだも憶えときなさい

小鼓も習いいよいよ縁遠く

横好きの方でと黒の方を取り

岡山市 宗 高 矢 寸 志

図々しいくせにノイローゼを怖れ

打明けた秘密座興にされている

大阪市 河 井 庸 佑

動評のこわきこの目でしかと見る

ストもなく電車の値上げだけ決まり

正当なビジネスですとチンドン屋

善成式市長臨席

一票にする気わざわざ歩を運び

大阪市 小 島 さ ぎ ず

ジェット機の凄さ爆音だけで足り

レントゲン不安な親娘の眼が見合い

石川県 同 村 虹 要

表札をいっそ女房の名にしよか

落選の事務所時計の音ばかり

今宵妻となりぬサラリーだけに惚れ

ひらひらと桜手錠の肩へ舞い

足しびれちゃったと鏡台からはなれ

同 舟 近 詠

須坂市 高 峰 柳 児

打算的甘さで男へからむ媚

低音で音痴ますますさくらけ出し

養老院事前運動に貢がれる

呼吸ととのえて重役室を開け

今治市 長 野 文 庫

情熱で打てば大地に響きあり

文字の国園を特需とこそ申し

杳下の模様小馬鹿にされる色

ほのほのとあたたまる記事小さすぎ

句碑の前少し反り身になって撮り

和歌山市 秋 月 宏 方

働かん定年制のない我が家

奥さんが留守でも電気釜律義

前職の髭がまだある小商人

大洲市 米 沢 暁 明

離段の外野を借りているこけし

しとやかな箒つかいは尼なりき

今治市 月 原 宵 明

お水取りすんだと病人励まされ

漫才に岸さん痛いとこ突かれ

枕外して入試発表後を眠り

旅役者島の人情で春を待ち

貯金底ついた頃から回復し

無愛想もよいもの釣の竿ならべ

花活けに来るへ交番敬礼し

結局は議会も喜劇舞台です

松山市 前 田 伍 健



新川柳鑑賞

麻生路郎

〔六六三〕

買うて食う蜜柑じゃないが

皮のかさ

(旭童)

作者は農家の人であるから、この実感をそのまま句にされたものと思う。喰べ終った時のみかんの皮のうず高いかさを見て、買うて食う蜜柑ではないが、こんなにも沢山な皮を捨てるといふことに、勿体ないような気がしたのである。物を作る農家の人として物の尊さをしみじみと考えさせられたのであろう。上五音、中七音で農家の人であることが巧みに描出しているではないか。

〔六六四〕

兄遭難父を笑わぬ人にする

(参無子)

山か、海か。それは判らないが、兄が遭難したらというものが、父が笑わない人になったというのである。兄の遭難が父にとってはいかに深刻なショックであったかが判る。一篇の哀詩だと云えよう。

〔六六五〕

山の中に建てても庭を造り

たく

(二雨)

人間というものは雄大な自然に恵まれた山の中に家を建てても、自分の庭というもの

を持ちたがるものである。

猫の額のような庭でもい

い、自分の庭と名のつく庭が

欲しいのである。そうした心

理を一個の人間からつかみ出

したのがこの句である。

〔六六六〕

地味に着いても晶子の血

がさわぎ

(女子)

非常に地味な着物は着てい

ても、君を思えば与謝野晶子

のような熱烈な恋愛の血がさ

わぐという句である。

「地味に着ていても」で、う

ちに秘めた物静かな女性の恋

ごころを充分に汲みとること

が出来るし、「晶子の血が」

で燃ゆる思いの熾烈さを巧みに表現しているではないか。

〔六六七〕

引返す勇氣もほしい山登り

(方古人)

夏休みが来ると、年々山登

りが旺んになるようである。

そして、昨日も遭難、今日も

遭難で、若者のいのちをむざ

むざと奪ってゆく。

山に対する経験の乏しいも

の無暴さをいましめた力強

い句である。

〔六六八〕

うち非売品やと気骨おらせ

る娘

(谷水)

近ごろの娘は何んでも割切

ったことをいう。その方がサ

バサバサしていいと、古い人た

ちにも多少は認識されたよう

である。

自分のことを「うち非売品

や」という娘、もう予約が出

来ているのかも知れぬが、そ

こまではまだ親達に打ち明け

ぬので「もう適齢期だと云う

のにどうする気なんだらう」

と両親たちにとっては気骨が

おれるのである。

この句の「娘」は「こ」と

訓むことは云うまでもなから

う。

〔六六九〕

便乗の車五尺八寸小さく坐

(春雄)

し

「同じ方向へ行くのだった

ら、そこまでどうですか」と

云われて自動車に便乗させて

もらったのはいいが、こちら

は五尺八寸の堂々たる体軀の

持主である。

しかし、便乗させてもらっ

たという遠慮から、なるべく

小さく坐したというのであ

る。

軽い穿ちの句。

〔六七〇〕

弄げかけていますと生徒ス
バリ云い (兼春)

近ごろの生徒は、先生をま
るで友達扱いにする。

「先生はN先生が好きです
か」

「そうだなア、嫌いではない
なア」

「先生がいくら好かれても、
僕はダメだと思ふな」

「どうしてそんなことが判
る？」

「だって、先生はもう弄げか
けていますからね。」

とズバリとしたことを云う。

「そうかも知れん」と先生の
方が黙り込んでしまうという
ところか。

〔六七一〕

通る人なくとも遮断機の律
義 (珠笑)

誰れ一人通る人がいなくと
も、遮断機は雨が降ろうが、
風が吹こうが、夜となく昼と
なく、列車が踏切を通過する
時間の前後には必ず開閉する
ので、その正確さを眺め面白
く感じて詠まれたのであろ

う。

律義という語が、この句の
場合、遮断機を擬人化したの
で一層興味の深いものにして
いる。

「先生はN先生が好きです
か」

五十五の満期ペン先換える
よに (一瓢)

サラリーマンの停年制を詠
んだ句であるが、使えるだけ
使うたら、何んの感傷もな
く、捨ててかえりみられない
ペン先に比べているところ
に、停年にドキンと突き当っ
たという悲哀さが巧みに描出
されていると思う。

「五十五の満期」が資本主義
の惨忍さを思わせるし、「ペ
ン先換えるよに」が人間の老
朽とペン先の使いふるしとの
対比を適切なものとしてい
る。

〔六七三〕

未亡人仲にはさんで夕涼み
 (狂二)

それほどの美人でなくて
も、未亡人というものは、と
かく男性の興味をそそるらし
い。夕涼みをするにも、お婆

ちゃんを仲にはさんだところ
で、少しの色気も発散しない
からである。別にどうする
という気はないにしても、若い
未亡人を仲にはさんで、ほの
かな浮気ごろをかきたてる
ところに夕涼みの味といった
ものがあるであろう。

〔六七四〕

早よ嫁にやらにゃ柘榴の如
と裂けん (喜由)

あの子もいい娘になったで
はないか。肉づきもいいし、
色艶やもいいし、熟れ切って
いて、今にもハチ切れそうだ
というのを形容して「柘榴の
如と裂けん」と比喩的にしか
も少しく大げさに表現したの
である。いかにも早く嫁にや
らねばという感想がうかがに
ふさわしい構成である。

〔六七五〕

パパも留守ママも出かけて
僕とチビ (幸男)

僕と云ってるのは学生であ
ろう。チビというのはその弟
のいたずらっこに違いない。
パパは今日もどっかへ出かけ
て留守。それ幸いとママもデ

パートあたりへ出かけたらし
い。そして何時も留守番をさ
せられるのが「僕とチビ」と
云うのである。

ある種の家庭が浮びがあつ
てほおえましくなるではない
か。

〔六七六〕

尻に敷くニュース仕入れる
主婦の会 (水堂)

牛乳はもつと値下げの可能
性があるとか、こんどの選挙
には公約を無視した彼氏は落
とすべきだとか、民主主義の
立場から云つても婦権をもつ
と伸張させるべきだとか、主
婦の会へ出かけるたびに、何
んかかんかの議論に花が咲
く。それ
てそれ等
の意見の
中から、
亭主を尻
に敷くこ
との出来
るような
ニュース
を仕入れ
て来るの

昭和二十八年十月号から連載
して長い間愛読をたまわつた
「新川柳鑑賞」は本号を以て完
結。

引続き次号からは
川柳名句と難句
を掲載することにしたので二期
待を乞う。

○

○

結婚式場
長生殿

神殿(2)控室(16)宴会場
(和洋)御待合室・更衣
室・美容室・写真室の
ほか、貸衣装一切を完備
しております ●6階



金曜 定休
松坂屋
大阪日本橋三

(終)



川柳における語彙と

かなづかいについて

北川春巢

今夜は山島生々庵先生が柳話をされることになっておりましたが、先生がよんどこ

ろない用事のため欠席されることになり、代りに何か話せ、と路郎先生から私に御命合がありましたので、皆様のお耳を汚すことになりました。しばらく御清聴の程をお願いいたします。本社句会が、大阪の真中の道頓堀、文楽座へ進出した第一回の句会に、お話しをさせて頂くことを光栄と存ずるものであります。

さてお話しはすることになりましたが、何を話そうか、と考えておりました時目についたのが、本誌二月号、不二田一三夫氏の「文字に生命を」と題する一文でありました。それに関連しまして、私もお話しをしようと思ひます。

一、聞いて分る川柳

俳句と川柳とを比較していつも言われることでありますが、「俳句は用語がむずかしいために、読み上げられたのを聞いても、その意味が分らないことが多い。それに引きかえ川柳は、披露を聞いていてすぐ

に意味が分る。」ということであります。

そのために、句会におきましても、俳句は運座といつて、一々句を見て選をするという方法がとられており、川柳では選者が読み上げて発表することになっているのであります。私は俳句の句会によく知らないのですが、その方法がいかにまどろっかしいと思われます。しかし俳人の誰もが、それを当然のこととして怪しむ人はいないようであります。

試みに路郎先生の句集「旅人」の第一頁を開いて見ましても

二階を降りてどこへ行く身ぞ 路郎

見渡すとユダの心をみんな持ち 天井にいつまでおさえられて生き

のように、用語も聞いて分るものばかりであります。一方俳人の高浜虚子氏の「虚子俳話」という本を見て頂きたい。これは虚子氏が朝日新聞に俳句の選をして、その後毎回何か俳句に關したことを書いておられる、その俳話の最後に選者の句が三句宛のつておられます。虚子氏選の句は現在でもまだ朝日紙上に発表され、私も関心をもつ

て読んでおりますが、その俳話が昨年本になって発刊されました。その本の旧かなづかいのことは後でまた述べますが、第一俳話の後にのつている三句の俳句を、ここに抜き出して見ます。

風椿立ちなほりつつ花落とす 虚子

鎌倉の古き土より牡丹の芽

花人といふべかりけり親子連れ

句のよしあしは私には分りませんが、第一句、第二句はさすがに聞いて分らない言葉

はないのであります。所が第三句の「花人」というのは、口調の關係から「ハナビ

ト」または「ハナウド」ぐらいに読むのではないかと思ひますが、平素は聞かぬ言葉

ですし、字引(広辞林)を引いても、出て

いないのであります。文字を見れば、意味

の分らぬことはありませんが、耳で聞きま

すと、何か抵抗を感じるのであります。

川柳にも時には文字を見なければ分らぬ句があることはあります。次にそれを申し上げます。披露の時に「コ」という言葉が出まして、娘の「コ」です。子供の「コ」

です。芸妓の「コ」です。というふうに変

者が説明しているのをよく聞きます。これはやはり文字を見ないと句の意味がよく分らない、句の意味が文字に助けられている、ということを示すものであります。しかしこれは川柳の罪というよりは日本語それ自体の欠陥であると思われます。

元来言葉というものはどんどん変化するものであります。人類が言葉を持った初期にはアとかイとかエとか、ごく簡単な言葉が多かった。と柳田国男氏も言っておられます。自分の心の思いを相手に伝えようと苦心して、偶然にも発音されたこのような簡単な音が、それによつてうまく伝えることが出来ること分りますと、それを次々と伝承して言葉が次第に豊富になつて来たのであります。また伝えたい気持は種々雑多でありますのに、アとかイとかの簡単な言葉だけでは用が足りませんので、そこに種々の加工がなされて、言葉が変化して来たのであります。例えばイという語は、「クモノイ」などと使われ、「蜘蛛の巣」のことでありますし、これを「クモノエ」とも言つたらしいのであります。イとかエとは東北地方などは混同して使われておられます。「エ」にも色々の意味があり、エだけで菓の意味に通用しなくなります。と、菓を現わすために、「エバ」とか「エバリ」「エズ」などと音を追加しております。この「エ」にはまた「餌」の意味もありませんが、これも「エツ」とか「エド」など他の音を加えるようになって来ておるのであります。「コ」というのも先程の娘、妓、子のほかに「ナマコ」のことも「コ」と申しましたが、後になると、「なま」の「コ」が「ナマコ」で、これを干したものは

「キンコ」といって区別しております。「コノワタ」、「コノコ」はなまこのコであります。「カイコ」のことも「コ」で、これを「オコサマ」という土地もあります。「タマゴ」のことも「コ」で、これを区別するために後代「トリノコ」というようになって来ました。「粉」も「コ」であります。娘、妓、子に限定がないのは、関西では「コオ」と言つて区別しております。その他カコ（木夫）、アゴ（網子）セコ（勢子）、ヤマゴ（山子）など後世は「コ」の上へ種類を限定する文字を添えて、間違いないようにしておるのであります。娘、妓、子に限定がないのは、まだその必要がないからでありましようが、またこれは日本語の欠陥とも言えると思ひます。

また「新春」と書いてハルと読ませたり「生活」と書いてクラシと読ませたりする句をよく見受けますが、こうなると目で文字を見なければ意味の通じない川柳になりかねないと思ひます。本誌三月号（川柳塔）には

日本髪縁談が決ったかと聞かれ陽子という句があり、「縁談」にハナシとルビがついております。何とかならぬものであらうかと考へるのであります。

日本には昔からよい言葉があつたのであります。一時、漢字を使うのがえらい人だ、と思はれる時代がありました。日本の言葉にすべて漢字を当てはめました。そして後にはその漢字を見なければ意味が分らぬ言葉が多くなつたのであります。また漢字を当てはめたがために、その漢字に引かれて言葉の意味がかわつて行つた、とい

ようなこともあり。何の役にも立たぬ緋り言、「愚痴とも未練とも思はれる長文句」を「ヨマイゴト」と言ひます。これを「世迷言」と書きこの字を見て「ヨマイゴト」と読む人もあります。「迷」という字を書いたがために、意味が次第に「迷」の方へと變つて来ているのであります。もともとこれは「ヨマフ」という動詞があり、現在でも東京のまわりの狭い地域には「ヨマフレ」と受身に使われて、叱られたり、小言をいわれたりすることださうであります。「迷」という漢字を当てたがために、意味が變つた例であります。

「いいアンパイに」などと使われる「アンパイ」は、本来「アハヒ」ということで、これはかつて路郎先生も説かれた「聞（マ）」ということであります。「アハヒ」が「アツイ」と発音される時代になつて、ワがバに移つていつたように思はれますが、そのうちに「シ」がはいるようになって、「アツイ」が「アンパイ」になつたのであります。これはまた「塩梅」という漢字の影響であつたのかも知れません。

「塩梅」は「エンバイ」で「アンバイ」と発音した筈はないと思はれますが、その中間に「味」の「アジハヒ」をおいて考えますと、こうなり易い傾向にあつたことは考えられます。狂言の茶子味梅（チャヌアンパイ）には「味梅」という字が書いてあります。アンパイはまた「按排」とも書き、物を適当に排列するように考えられる字であります。しかし私達の使うアンパイはそんな意味とも違つております。毎朝の挨拶に「よいアンバイです」といっている所もあります。これはお天気の意味であります

が、必ずしも晴天とは限らず、田植の前ならばやがて降りそうな空模様も「よいアンパイ」の一つであり、海に出る者はシケでない日、追い風の吹くのがそれであります。また或る土地ではアンパイが健康状態を意味している所もあります。「塩梅」とか「按排」とか当て字を書いたがために、却つて文字を学んだ人々には適切な利用が出来なくなつたのであります。

日本人が日本語を耳で聞いただけでは理解出来にくい、というようなことでは困つたことになり。近頃ではラジオの放送などからだんだん話し言葉が研究され理解もされ易くなつて来ているのは喜ばしいことであります。先日ラジオで「オシヨクジケン」をさし上げます」と言つておりました。丁度国会も開かれており、「汚職事件」が流行語になつておりますので、汚職事件をくるとは何事かと思つております

と、実はお食事券をくれるのだと分つたのであります。医学放送もよく行われ、これが、これにもむずかしい言葉が多く、「シシがマヒする」なども聞いていて分りにくい言葉であります。「四肢が麻痺する」と書けばよく分りますが、聞いた言葉を頭の中で漢字に直さなければならぬ、というのは情ないと思ひます。これなど「手足がきかなくなる」と言えはすぐ分る筈であります。今夜の兼題の「商才」なども、文字を見ればすぐ分るのですが、耳で聞いただけでは一寸分り兼ねます。字引を引いて見ますと、「商才」という言葉はなく、「シヨウサイ」の所に「詳細（シヤウサイ）」、「小齊（セウサイ）」、「小祭（セウサイ）」と三語しか出ておりません。このよ

うに発音を聞いて、それをもう一度頭の中で漢字にしなければ理解出来ないような日本語ばかり出来ると、それは川柳だけのことでなく、日本語全体の問題であります。が、やかましく言われているローマ字運動やカナ文字運動などは、なお遠い将来のことのように思はれるのであります。

二、新かなづかいについて

次に一三夫氏の文章は、送りがなのことに関係しております。新送りがな法も最近国語審議会が発表して新聞にも出ておりましたが、要は読み違いをしないよう、読み易く、というのがその目的であります。私には一般にかなづかいについて申し上げようと思ひます。

新かなづかいも、終戦後アメリカの教育使節団が来て、言語改正を勧告したことからはじまります。使節団は、高等小学校二年を終えた農村青年に新聞の政治面を讀ませた所が、読むことが出来なかつたのを見て、勧告したのであります。国内においても既にそのことは痛感されておりました。国字問題、かなづかいの問題も研究されておつたのですが、山中実行は出来にくいものがあつたのであります。文部省では既に成案が出来ていましたので、勧告後すぐに発表されたのが、現代かなづかいという新かなづかいと、当用漢字・教育漢字の問題であります。

上田万年博士によりますと、イタリヤ、ドイツ、イギリスにおきまして、子供が学校で自国語を身につける時間は、イタリヤ（九四五時間）、ドイツ（一三〇二時間）イギリス（二二三〇時間）であります。一

年三六〇時間の割りで入学後三、四年から五、六年後には、これらの国々の児童は、すべての本が自由に読め、言いたいことが自由に言い現わせるのであります。しかるに我が国の国語教育はその頃まで、小学校六年、中学五年、高校三年計十四年もかかったのは、何万という意義文字の学習と、千年も前の古典のつづりを一般人が毎日読み書きさせられたという、特殊事情によるもので、あなたら青少年時代の十四年を費してもなお誤りなく読み書くことが出来ない実情でありました。

言葉はあくまで知識を得る手段でありまして、目的ではありません。国民の国語教育の仕上げが早ければ早い程、新しい知識が早く身につけられ、手段である国語の教育に手間どれば手間どる程、進歩のおくれをとることが多いのであります。

所で旧かなづかいと言いますのは、古典かなづかいとも言い、平安朝の頃の発音通りに書いたかなづかいであります。これを金科玉条と守りまして、言葉づかいの変わった今日でも、かなはその通り書かないと間違いだとされていたものであります。例えば「蝶々」は現在「チョウチョウ」と発音されておりますが、書く時には「テフテフ」と書く。「近江」は「オウミ」と読みますが、書くのは「アフミ」である、という類であります。昔は「テフテフ」と発音されていたのですから、書く時にも間違っていないことですが、発音の変わって来た今日では、このかなづかいを一々の文字についておぼえるのは大変なことであります。今夜の兼題の「商才」ももとは「シャウサイ」と発音しました。現在では「シャウサイ」

も「シヨウサイ」も「セウサイ」も同じく「シヨウサイ」と発音しておるのであります。あの五十音図のア行の「イ」「エ」とワ行の「キ」「エ」なども、昔ははつきり発音で区別が出来ていたさうであります。どんなに違うのか、発音記号では書き分けてありますが、私にも発音してお聞かせずることは出来ません。現在ではもうこれらの字を発音で区別することは出来なくなっておるのであります。

そこで新かなづかいが発表になりました。これは「現代語音」にもとづくかなづかいで、現代語を書くのだ、ということであります。五十音にも「イ」と「キ」、「エ」と「エ」の区別はなくなりました。

大新聞もこのかなづかいには賛成し、協力をしたものですから、教科書などと相まって目の方からの教育は行き渡りましたので若い世代の国語の読み書きの苦勞は減って参りました。夏目漱石、芥川竜之介、森鷗外などの小説は、現代語を旧かなづかいで書いてありますので、若い人々はこれを読みにくがっており、少年少女向きには、これらの小説でさえ新かなづかいに書き替えられて発刊されております。先程申しました「虚子俳話」の旧かなづかいも、もう五十年もすれば読める人はいなくなるのでは、と私は思うのであります。(注一)その後、三月十一日付朝日新聞の虚子俳話「ものあわれ」と題して、虚子氏も新かなづかいで書いておられるのを発見した。私としては、我が意を得た感がないでもない。)

昭和二十九年から三十年にかけて、国語研究所において、二十才以下の青少年を対

象に新聞に関する調査が行われました。その結果を見ますと、全日制の高校生では、新聞を毎日読む者八五％、時々読む者一五％で、全部の生徒が新聞を読んでおります。定時制高校になりますと、毎日読む者七四％、時々読む者二四％、勤勞青年では毎日読む者五七％、時々読む者三九％と、中には新聞を全然読まない人もあるらしいのであります。

新聞を読む者について、一日どれ位の時間読むかといえますと、平均六、七分読んでいます。これによって新聞を読むことも、生活の一部になっていることが分るのであります。またその調査の中で、新聞に出た文章を横書きに直したり、漢字を減らしたり、文章をやさしくしたりして調べてあります。漢字の含有率は一〇〇字当り二五―三五字程度が一番読み易い、また一文章の長さは五〇―一〇〇字位が一番理解し易い、などということが分つたのであります。

以上のように、耳で聞く言葉の改良にラジオが役割りを果たし、新かなづかいや当用漢字は、その普及に新聞が大きな役割りを演じております。テレビでは、狭い所へ書かねばならぬために、又も目で見える文字、むずかしい字を使つたりして逆行の傾向があるさうであります。

川柳におきましても、(日本語の欠陥はどうにも仕方のないことであります)なるべく聞いただけで分る句を作り、これを書く場合にも新かなづかい、新送りがない法



お買物は…
清く
明るく
美しい

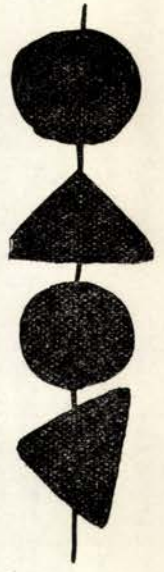
大阪梅田・水曜定休
阪神
電大代表(36) 1201

で行きたいと思うものであります。かなづかい、送りがなの例は、一三天氏の文章にくわしく出ておりますので、私は略します。

(参考書)

- | | | |
|-------|--------|------|
| 麻生 路郎 | 句集「旅人」 | 東都書房 |
| 高浜 虚子 | 虚子俳話 | 創元文庫 |
| 金田一京助 | 国語の変遷 | 創元文庫 |
| 柳田 国男 | 毎日の言葉 | 創元文庫 |
| 柳田 国男 | 国語の将来 | 創元文庫 |
- 言語生活 昭和三十四年三月号

(追記) 本稿は三月の本社句会における柳話を当時のメモを頼りにして書いたものである。話す時には一々文字の説明をもしなければならぬので苦心したが、書く時には文字は見分つてもらえらるという安心感のため、書く方が遙かにらくだといふことに気付いた。日本語は、話すだけですぐ分つてもらえらるようには思つたのむずかしい、ということを再び思ったのである。



緑蔭三題

東野 大八

繼宮智仁殿下

「ご成婚記念にぜひ一つ」というのがわが家の貧しい勝手口でもいとさかんであった。上は保険屋の外交員から下は出入りの醤油屋まで、いとも活潑な波状攻撃である。まるでナベ底景気の中から鳥でも立ったようだ。

しかしこのご成婚も十日すぎればその頃のサクラといっしょであと形も止めない。が、そこは商売、くだんの十日過ぎると新婚一年目あたりからお目出度というのが通り相場とふんで、それを目当てのセールスマンまで現われたのには愕いた。

は、まず婚約発表の際眼にしたテレビでの学友連の話である。

「要するにだ、皇太子さまは正田家へ養子に行かれるようなお気持ちが大それたな」

一人がそういう風に言っている。アメリカのタイムをみると、美智子さまのことをシンデレラにたとえる手近な表現として「コナヤの娘」という字句を用いている。コナヤのコナは中華そばやきしめんの材料だから、シンが強く

腹膨えがきく。シナチクやヤキブタを入れたシナそばはみたくないおかみさんに限って腕白坊主の息子が沢山いるものだ。皇太子妃さまが対して庶民の俗事を引合いに出すのはまことに恐縮だが、とにかく人間関係においてはお子様は皇子様にならさうと最初のお子様は皇子様にちがいない、とそういう話をこちから出したらさる友人は、その名はききと繼宮智仁殿下にちがいないと答えた。

さる人がアインシュタイン夫人に「相対性原理は極めて難解なものであるが奥様はその点についてご理解されていますか」ときいたら夫人は「相対性原理よりもアインシュタインを理解することの方が私にとっては大切です」と答えたそうだが、美智子さまもききとこのようなお答えを用意されるような気がする。ソクラテスは愚妻故に大哲学者になったのだが、皇太子様はその逆で、至極人間のなお方になられるよう祈りたいものである。

バカな炭坑節

「春や春地方事務所が掘りはじめ」という木耳さんの有名な句がある。今は地方事務所ではなく県事務所なんだが、この句を春先になるほど切実に思出す。

というのは、ついこの間工事中のサクがとれたと思つたら、もう赤電球をアラ下げて交通禁止。まあこれがすめば当分は、と思つたら、その舗装が乾かぬうちに土工がやってきてカチンカチン。掘って掘ってまた掘っての炭坑節じゃあるまいしこう同じところばかりはじくり返されたのでは近所迷惑はもとよりただ通るだけの通行人としてカンが立ってくる。

京阪神、東京あたりはこの点特に甚しく目貫き通りは年中掘っているような錯覚を起す。筆者の住む地方中岡都市とてご同様。施工者側は県市両土木部をはじめとする上下水道、側溝をはじめガス、

電信電話、電気、電車、バスの所管ちがいがから官公衛、一般会社、民間の任意工事がこれに割込む。集中箇所が大体同じところだから目貫きはど舗装乾く間もなしの羽目に陥る。

川柳人が春や春というのは季節感からきているのだが、その実は年度末予算のぐくりが三月末なので、新年度予算の振り合い、春や春となる。

なぜこの様な無駄な金と時間と労力を費しての炭坑節か。要は県市や所管機関が独自の施工計画ががちりタテに押しならんでいながらこそ他にない。これを横につないだ明確な連帯工事計画が樹てられていれば、炭坑節的な無駄なロスはある程度まで押さえ切れる。関係筋では何をバカな素人考えを一笑に付し、勇んで失対事業に結びつけられるだろう

が、その実績は何もないのが実情だ。殊に地方中岡都市でなら、ある程度の協定が成立つ可能性がある。そうした長と名のつく人々の会合が持たれながら、この横をつなぐ合理化案の話一つ出ないとは甚だ妙な話というはかはない。

山下清と蛇

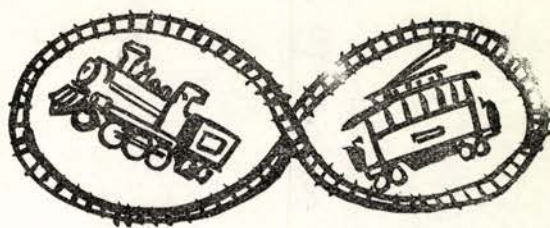
さきごろ、山下清くんが岐阜へやってきた。ウツサに名高いハダカの大將とあって、そこそこで大人気。人も知る清クンの秘書役として実弟に当る人、介添として精神科の博士がみえられた。人間ときと場合で、頭は至極弱くても立場がさかさまになるものだ。とこちらは感心した。

ところでこの清クンと、さる場所へ出かけるのに、車中一時間はかり一緒にあった。さてそのときのことだが、この放浪の画家は急にこんなことを言い出した。

「山歩いてると、大蛇が出てきて、ウンでつかいへびだな。道ってる人をパクリと食っちゃ、するとだ、帽子やクツや服は一体どうなるか」

われわれ一同は苦笑し合ったがそんなことに頓着なく、先方へつくまで、この大將、帽子と靴の処理の結論がとうとう出なかつた。着いたところは陶器の絵付所で、そこで楽焼をすることになつた。マジックインキを使いかけて、それはいけないといわれ、所用の絵具皿を前に置かれた。何をかくか？ その真剣な一ときの顔はさすがに人並以上の緊張の表情だったが、やおらその構想なつて描き出したのがへびだった。はて、問題の帽子や服や靴はどう始末するか、とみてみると、一カ所へ丁寧にならべ、ゆでた海老の抜き身のような細長い裸の人間を一つ描いた。そしてその横へ、太ちの蛇をのたくらせた。山下画伯の出世作、お化の絵にどこか似ていたが、ご本人それを描きあげて至極満足そうにニタリと笑つたことであつた。みている方も思わず笑つたことだったが、何んだかそれで肩の荷がこちらも下りたような気がした。

句評リレー



大阪市

西尾 葉

東京都

山根 白星

石川県

那谷 光郎

下関市

中村 九呂平

大阪市

真鍋 一瓢

白星氏提出 (川柳塔二月号)

新しい母へ小さい順に馴れ

恒雄

説明は不要と存じます。人情の機微です。

スムーズに長吟せずに出来た句かも知れませんが「新しい母」は後妻ですし「小さい順」で二人以上の子供達でしょう。一字一句ツがありません。空想を逞しくす

九呂平―心の温まる句ですネ、句中の御主人は良き後添えを嫁とられて幸福だと思えます。

一瓢―私の考えでは後添いはあまり若くはないですね。柔和で温厚な人柄がほのほの漂っているようで快よさを覚えさせる。可成り練達された手法の句だと思います。

「小さい順に」とある限り大きい方も時を能えて馴つかせて行く事にも怠りないでしょう。

葉―私達の川柳に入った動機とか、好きになったというのは――古句のよくなればねるとのぞく枕敷帳というような、父母性愛の句を見せられた時に、感動したことに初まるのじやないかと思えます。

白星―実感句かどうかは判りませんが万人が万人共川柳のよさを感ずるとの良い句だと思います。川柳の初歩の方に、お見せしたい句です。ただ着想の古さ、新しさに付て、所謂、マンネリズムか、否かに付て、類句に付て、意見がある方もあるかも知りませんが、

光郎―いささかマンネリズムの感なきにしも非ずだが、ほのほのとした情感到満ちているため小生には少しも苦にならない。

九呂平―後妻として小さな心使いまで何え子供達も母の慈愛に溶け込んでいく様がよく現われてい

る、所謂マンネリズム云々は考えなくていいんじゃないですか、一瓢さん如何です。

一瓢―同感です。斬新奇抜なねらいで名句が生れればこれに越した事はないが、私はこれで上々の部として推して行きたいと思えます。

○ 白星氏提出 (川柳塔新年号)

恐ろしい心が動くインキ消し

小松園

乱歩の怪奇小説か？ ヒチコックのスリラーか？

小切手 e t c をかいざん、横領の不徳のところが動いたと云うのでしようか、いやいや未熟な小生の鑑識眼故に絶対な解釈の存在を見きわめ得ないのでしようか？ 或はもう一つのオブジェが句にならないのでこれが「動く句」と言うのでしようか？

或は「恐ろしい」で一定のものを連想しろと言うのでしようか？ さもあらばあれ「解釈は読者の自由」と言う句もあっていいのではないでしようか？

葉―批評の方が、一寸むつかしくなった様だ、インキ消しを使ったところが、余りにも旨く消えたので、それからそれへと連想がわいて、小切手改竄という空恐しい心になったのでしよう、心が

味の七-コ

モダン 川柳

心斎橋大丸北の辻東へ

御門

TEL 06 6684

御集会には階上御利用下さい



動いただけで、決してやったのではない、之は川柳家の一つの見方であって之によって、句が生れる老巧小松園らしい旨い句だ。

白星―小切手、遺言状、或は探偵小説に出て来る、一字をかいざんした為に、複雑怪奇な事件に発展して行った重要書類、e t c ……

ボクは、小切手と断定して仕舞勝ちな批評家のドグマを、言いたかったのです。

光郎―此際オブジェがなくて一向差しかええない。秀句として頂戴します、解釈は読者の自由と言われる白星氏の言葉の通りこんな句があってもよし、却ってオブジェがないため、種々想像が生れるのではないか、それが面白い。但しインキ消しで如何に旨く

消しても化学反応で明瞭にわかるものだ。君子は危うきに近よらずだ。又この句の動くのは逆効果の役を果たしているように思う。

九呂平―栞さんの御話に「余りにも盲く消えたのでそれからそれへと連想がわいて」心が動いたと見ました。この人は犯罪を構成してしまつたんではなくて、罪人になるかならないかの瀬戸際で、何んだかこう書いていても自分でははらしているようです。そう言った意味の躍動と言いますか、させられる句ですね。

一瓢―レーニンの言葉だつたと思ひますが「コップは硝子で作つた器具である、毒薬を盛れば殺人器となり、薬を入れれば救命具となる、事物はかくの如く云々……」

と言つた事を何かで読んだ事がありませんが、このインク消しは、「恐ろしい心」とある以上、何か犯罪的要素も交っているかに取れますね、誰の目にも一応小悪党の連想を逞しゅうさせた、作者の手腕感服します。

栞―光郎さんは流石科学者だけに、盲く消しても化学反応で明瞭にわかるものだ、君子危うきに近よらずとまで言つていられるが、

この場合の動いた心には、後日の化学反応逆意識して居りますよ、使つた瞬間の化学反応に、恐

しい心が動いたのでしよう。作者の句に――綺麗な言葉で女うそをつき――とかいう句があります、恐ろしい、綺麗な、という言葉を盲く駆使する人だ、昔から。

白星―誰の心の中にも「ジーキルとハイド」が住んでいます。インキ消しがあるが故にハイドの心が目覚めたのでしょうか。とりたてて秀句だとは思いませんが、作者は練達の手でしょう。

光郎―この句は栞さんの言われる様に、後日の化学反応逆意識している訳でないのは勿論である、インキ消しは小生も常用しています

が恐ろしい心なんかちつとも動かない、ただ文字の書き違いや文章の意味の通らない所を訂正するの

に使用しているのみである。インキ消しの悪用つまり改竄して犯罪を構成する様な心理にはならない。恐ろしい心が動くのはあまり

うまく消えたからでしょうか、このインキ消しを使つた人は初めてか乃至常用してない人のように

考えられはせぬか、ともあれ白星氏の言の通り誰の心の中にも？ ジーキルとハイドが住んでいる一面があり此点を鋭く突いた佳作だと考えるーインキ消しは一液二液が交ざると完全に消えなくなるこ

の句は横領とか、そんな重大犯罪的な考え方でなく、光郎さんのような解釈でどうですか？
一瓢―科学的に人倫的に色々の御意見が出尽した様ですが、これは私の立場から、うちの会社では、IBM即ちインターナショナルビジネスマシンで総ての計算書は出来るんですが、私の望ましいのは一つ給料明細書だけ、この機械に使うインクが消せるインク消しが欲しいとかねがね思つて居ります、この句から受ける「恐ろしい心」はこれ位な心じゃないかとも思えますが。

○ 白星氏提出 (川柳塔二月号)

還暦をすぎてもなぶりきく女 阿 茶

無言で出させていただきます。二つの解釈が小生にあつてはつとしました。

栞―二つの解釈の一つでも、きかせてほしい。作者は女性であり、お医者さんだ、なぶりは鬨りの意

か、医者の立場から医学的にいうて、六十の還暦をすぎても男性に比して女性は肉体的に鬨りが効くという意か、或は特定の人

知れんて。

白星―還暦を過ぎた者同士の楽しい温泉団体旅行？ で、矢張り色気は、特に女は、「灰になるまで」の喩え通り、お酌させたり、

踊りを所望されたり、軽くひやかされたり……「なぶり」は「鬨り」でも、誇張法で、それが為に故意に、「なぶり」と仮名書きにしたのではなからうか。その

「なぶり」の、誇張法が、返つて面白く、この解釈でいけば、「きく」が、特に、きいてると思つたのですが、……も一つの解釈に

しても還暦を、過ぎたのが、男か女か、の相違で、肉体的な、「なぶり」とは、夢にも思いませんでした。そして「還暦を過ぎた」女

(つまり婆さん)の、チグハグさ

が、又、返つて面白と思つたりしたので……肉体的な鬨りでしたら、作者にも、失礼な気がするし、栞さんではないが、「末摘花行き」の前に、きつと、没句に

でもなつただろうと思つたりするのですが、如何がでしょうか？ 光郎―作者の所謂なぶりとは、軽い意味であり、いやしい想念のないものであると推察する。女は老

など超越して、冗談も言われ、時にはお酌も、踊りもやらされることがある。還暦は女の方と解した

い。男とすれば句が下品になり、所謂末摘花ものの感がする。……小生はなぶりと仮名書したのは、

若本多久志編 麻生路郎序 六月上旬刊行

川柳親ごころ子心

150円 定価
24円 送料

偽り多い世の中に、親が子を思い、子は父親を想う至情こそ真実一路のものと言えらる。編者がその愛を裏つた悩みを川柳に転嫁して以来二十数年、「川柳雑誌」の川柳塔及び近作柳樽の中から、親ごころ子心を詠った秀句を多年に亘つて根気よく拾い蒐めたのが本書である。登録された柳人三百余名、集句二千余は親と子の愛情が如何に深いものであるかを知ることの出来る、実に有意義な書である。柳友諸氏の座右にお薦めしたい。

発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区万代西五の二五
振替 大阪七五〇五〇番

誇張でなく軽い意味を持たせるためでなかったかと思う、此辺は作者に訊きたい所である。

九呂平一 字句の解釈からすると「鵬」とは肉体的お色気が強い、その意味でないための「なぶり」だと解釈したい、男性に比して女性に肉体的に鵬が効くと言った対象的なものではなく、特種な婦人（三十肌にも見える水々しい還暦の女かも知れない）を一般婦人が見た批評、或は卑下した見方にも思えるし、男がなぶりの効く女だと評したのかも知れない。「も」がよく現わしているように思いますね、つまり特種な場所（赤坂、中川）の特種な婦人を評するに「なぶり」と表現される場合もありますね。阿茶女史に訊いて貰いますかね。

一 瓢一 この句は環境に恵まれた幸せな生涯を送っていられる作者によってのみ作られた句だと思ふ。

我が子の無事を祈りながらルパング島へ行こうかと言うようなお婆ちゃんなんかじゃない、ユーモアなんかでんで解らない田舎の貧農の婆さんでもない、豊かな老後を持った階級の女でしょう。昔三笠しづ子さんの句に「くるりと廻る猫の目男の目」と言うのがあります、さこそと想像して見ましたが。

葉一 常日頃の心のもち方が、なぶりを、鵬という字に態々更えて、とんだ解釈をして汗顔の至りだ、

白星さん、光郎さん、九呂平さんの御解釈を承って成程と思つた、この場合のなぶりは、大阪でいう、ひやかし、とかぞめきとかいう意味であることが判然とした。

白星一 小生が「なぶり」を誇張法と申ししたのは、説明が不十分でしたが、「なぶり」は葉さんの仰言る、ひやかしの意で、ひやかしの誇張だと申し上げるつもりでした。ですからわざわざ「鵬」を「なぶり」にしたのでしようと思へ上げたかったのです。

光郎一 なぶりの解釈を悪どい所謂鵬でなくひやかしの誇張だと言う点に思い至つたならこの句は明るい明かな句となり、環境のよさに於いて初めて生れた句と言えよう。

○ 九呂平氏提出（川柳塔一月号）

特徴は愚直に近い勤めぶり

句のよし悪しよりも好きな句

だ。愚直に近い勤めぶりするものがその事務所に何人居るか。作者が見出したこの人は二十代だとしたら最高の表彰ごとだ。おそらく人物は明治生れの小学校卒程度で小まめな小使いでもあろ

う。「愚直に近い」の近いを何とか別の表現がなかったでしょうか。

葉一 愚直に近いで、愚直じゃない所謂甘いも酔いも知りすぎて、宮仕えはこの愚直に近い方法こそ、最善の勤務姿勢と悟っているところじゃないだろうか、九呂平さんの小まめな小使さんという想像は一寸受けがたい、尚中七より寧ろ上五の特徴は何とか別の表現にしたいというのが私の意見。

白星一 「四十八歳の抵抗」以前と言ふ感じがしました。「愚直に近い」は、これでいいと思います。

上五を「大悟して」なんぞと、変えてみたら、思つたりしましたが、作者のイメージを、壊す怖れがありますので、そのままにして置きました。

光郎一 愚直でなくて本当は小柄口なのではないか。派手にやり過ぎて失敗、解雇されないために、見かけは愚直に近くてくるのではなにか。とすると特徴が生きて来ない。葉氏の所謂別の表現が欲しいことになる。この意味から白星氏のも成り立つと思ふ。

九呂平一 有名会社などには愚直に近い勤めぶりの御人も多く見受けられましようが、学歴のない学校や銀行の小使さんと言つた階層に

多く見受けられると思います。（四十年も昔のことですが私の母校の小使さんにこの句がピッタリそのままにこの句がピッタリそのまかも知れない）働くことを趣味としての勤めぶりをたたえる為にして「近い」を一層力強く表現をと思つたからです。好きな句ですね。

一 瓢一 どうもこれは私の事じゃないかと思われような句で、時々女房にまで毒付かれながら、休日出勤までやる事があるんですが、悪く言えば世渡り下手な仕事に追い廻しとくより外に取得がないと言ふ風に取つたら違ひますかな、私と比較すれば当らずと言えども遠からずですが、どうも下積のひねくれ根性が出ていきませんが、そうとも取れるんじゃないでしょうか。

葉一 愚直というのは、馬鹿正直という意なれば、その近いというのは、光郎さんのいわゆる「柄口」の裏返しだ、カモフラージュ勤務と見るは余りにも惨酷だろう。要するに上五の特徴はによって色々になるね。

白星一 も一度読み直してみても、色々の解釈が成立つと思ひますが、もう少し突込んだ表現がなくては。光郎一 この句の「特長」を生かそうとすれば、愚直に近いの、近いがどうもピッタリと来ない。事なか



れ主義で自己の安泰を保持するに汲々としている小柄口な？ 勤め人を小生は想像する、此点葉氏の御意見に賛意を表するものである。九呂平氏の所謂、小まめな小使さんを思わぬでもないが、これで特徴が生きて近い、が死んでしまふ。小生にはどうしても意あつて表現不十分と言ふ気がしてならない。

九呂平一 事なかれ主義で自己の安泰を保持するに汲々としている小柄口な勤め人にとはどうしても受け取れない入ですがね。一 瓢一 そうですとも。事なかれ主

「ず」と「づ」の 使いかた



不二田 一三夫

新かなづかいで「じ」と「ち」はあまり使われないが、「ず」と「づ」には相当苦められるようだ。力杖(ちからづえ)は(つえ)だから(づ)を使うが、礎(いしずえ)は、(つ)と音が出てこないから(ず)であることがわかる。宝塚は(つか)だから(づ)であるように。一度発音してみたら、それがヅかズであるかがすぐわかるとおもう。

同音の連呼によるものや、二語が連合したものは、旧かなづかいでもよいということをお頭にしておくといふように思う。

同音の連呼によるもの、(綴・つづり)や(続・つづき)がそれである。

二語が連合したもの、(鼻血・はなぢ)がある。これは鼻と血で二語になるが、(鼻筋・はなすじ)は一語だから(じ)を使う。(新妻・にいづま)新しい・妻・二語になるから(づ)であるが、(稻妻・いなずま)は一語だから(ず)を使うのである。同じ妻という字を使っても、二語は(づ)であることさえおぼえておくと楽である。

(鼻血)の血は(ち)であるが、(意地)の地は(じ)である。一字ではどちらも(ち)であるが、(意地)の場合は一語である。

(表通り・おもてどおり)

(ものの道理・どうり)というように、ドオリかドウリか、発音しながら書いていけば新かなづかいはそうむずかしいものではないとおもっている。

で一日常茶飯時で、この句からは余り感銘も受けません。
光郎一勿論原句のままで上々ですが、句の解釈はその人の自由で、白星氏の言もうなずける、ただ旅のことが一寸気になるだけで小生としては菜氏の御意見に共鳴する他はありません。
九呂平一ベテランであることに異論は些かもありませんが、感興によって軽重の度合も変るし、まして旅先となると袴を脱いで一枚も二枚も格を下げて俗に溶け込みたがるもの、ストリップ女剣戟とかヌードショウとか極く軽い気持ちで木戸を出入しているんだから、それが十二分に味わえ向がわかれてこのままそつとして置いていいんじゃないですかね、「旅のこと」で逆におうちでは謹厳そのままだと言ふ感じをも受けます。
一瓢一要するにこの句は、居住地の関係で視角を多少変えなければ具合が悪いと言ふ点に気付きました。赤裸々に私に言わすれば、ヌードショウ、ヌード喫茶など白星氏の言われるように日常茶飯時位にしか考えていないので、あまりピンと来ない。所が謹厳居士の地方の紳士方には、素破一大事と言う事にもなりますが、私共としてまだまだ研究の余地があるよう

(担当 真鍋一瓢)

義の保身に汲々としていているなんておよそ「愚直」に縁遠い輩である。私は私なりの立場から断言します。「特徴は」とあることから考えても上役であろうが歪んだ懐柔策には乗って行かん男だと思いません。

光郎氏提出(川柳塔九月号)

ヌードショウ覗きに行くも
旅のこと 無鬼

共鳴させられる句。旅の恥はかき捨てと言う人間の弱点について余すところがない。旅の空で心の緊張がとれた心理をよく表現していると思う。覗きに行く人は中年以後の人であり、分別もある世事にたけた人を想像する。無鬼氏はよく旅に出られるように思うが、

恐らく何かのヒント乃至灵感の句であると思う。路郎先生の「だしぬけに鐘の鳴るのも旅のこと」を思い出します。

菜一川維、いや柳界のベテランその人ありと知られている、無鬼さんの句だけに菜々と作っておられます、光郎さんの評でつきえています、下五の旅のことは、川柳常套語を余りにも安易につけられた嫌はないだろうか？

白星一旅の句には、路郎先生の、名句があつて、作者は、大分損をされました。

光郎一ヌードショウは観光温泉街ばかりでなく、他の大都市にもあると聞いていますが、覗きに行つた事がないから明瞭に言い切れません。旅のことと言う常套語？

を、宿丹前とか、旅浴衣とか、共他これに準じて表現したら如何なものでしょう。然し句そのものは今以て感銘し面白い句だと思つて

いる。旅のことだけが気になる。九呂平一旅先でのこ言つた行動はよくありますし、また耳にもします。弱点と言うよりは共通点ではないですかね、「覗き」に旅先の気軽さが充分味わえますね。

一瓢一重箱の隅つこまではじくるような言い方も知れませんが、この句は軽い意味に見過したら良い、男の出先での解放感を、そのまま名口調が頭に残っているまますらすらつとやつてのけているんじゃないでしょうか。
菜一瓢さんの軽い意味で見過したら良い、という意見はそれで良

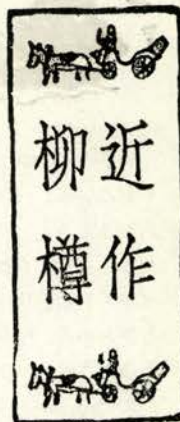
いのだけれど、句評にのつた以上は、一言いわねば句評にならない、白星さんの損をしているという言葉はうなずけると同時に、この場合が問題で、ベテラン中のベテラン、無鬼さんなりヤこそ、下五の旅のことという言葉が気になるので、今一歩大先輩として掘り下げる？というか脱皮というかな新語がほしいというのが、無鬼ファンの菜の意見さ。

白星一今回、批評の諸先輩は、ヌードショウは「観光温泉街」だけにしかないとお考えになる謹厳な紳士ばかりで、この句に「深い感銘」をされ「人間の弱点を鋭く突いた」句とされましたが、白星あたりのダイズムの傾向ある不良は、斯様なことは、一お銚子一本

で一日常茶飯時で、この句からは余り感銘も受けません。

光郎一勿論原句のままで上々ですが、句の解釈はその人の自由で、白星氏の言もうなずける、ただ旅のことが一寸気になるだけで小生としては菜氏の御意見に共鳴する他はありません。

九呂平一ベテランであることに異論は些かもありませんが、感興によって軽重の度合も変るし、まして旅先となると袴を脱いで一枚も二枚も格を下げて俗に溶け込みたがるもの、ストリップ女剣戟とかヌードショウとか極く軽い気持ちで木戸を出入しているんだから、それが十二分に味わえ向がわかれてこのままそつとして置いていいんじゃないですかね、「旅のこと」



麻生路郎選
北川春巢選

よくはきましたねえと靴屋（はらちを） 玉野市 伊原 明林
 寝ころんで客の残した菓子を食べ
 あんたから貰うたものは風邪ぐ（らい）
 トランジス（ト）に鳴らし表を踏み
 チン（ン）で開ければ妻の仁王立ち
 ラジオでは云わぬ葉の方が効き
 ビルの窓開けると今日が動き出し（西宮市） 富水 夢路
 美しく刺戟しあって事務たのし
 叩かれる覚悟をみせる猫の耳
 マッチの灯囲うてあげる好きな人
 霜柱水菜のうまい話（美祿市） 同 安平次弘道
 離婚成立家裁の桜花盛り
 税務署に賞められ同業にうらま（） 同
 乗越した駅のパチンコよく入り
 卒業式明日から失業者の仲間
 石橋を叩いてる間に株価は上り
 画竜点睛くちびるを女塗る（青森市） 同 工藤 甲吉

市場籠女房は憂さを晴らしに出
 婦心矢のごとくになって酔がさめ
 南極をしのんでなど無精ヒゲ
 父に似るところを母に叱られる
 よもぎ摘む女に春のプランあり（岸和田市） 同 内藤さき子
 この辺は駕でゆきたい春の道
 何を着せても似合わない子に困り
 フランスへ行つた話にソツがなし
 プリキ屋のとなり（）に馴（た）子が眠り
 故郷を捨てて胸病む人になり（西宮市） 同 末沢 友子
 アパートに住んで文化のは（）に生き
 濃い唇を出るアヴェ・マリア
 義理かけた見合へ重いコンバクト
 溜息をつけば煙草の灰が落ち
 動評を鶏にする妻の 餌（宇部市） 同 上林 粗影
 鍍屎が降りると世帯話の行員さん
 女手に育てられおんなに苦勞する
 春を待つご（）峠の茶屋は店を出し
 碑の銘は判らずハイキング飯に（）
 私ひとり燃えてた恋が口惜しうて（豊中市） 同 石川ひさみ
 お隣りは奈良へ出かける鍵をかけ
 洗濯の山へ女は風邪をひき
 合掌の瞳は仕合せに満ちて閉じ
 桜サクラ三味の音さえせぬ桜（東京都） 同 山下千代美
 アパートも春バルコ（）へ花を植え

雑筆
春秋

日赤阿武山の
人々

丸尾潮花

日赤阿武山病院へ川經三月号を
 寄贈された、村山光輪さんへ、お
 喜びのお手紙と旬報番案が送られ
 ているのを私は拝見させて頂きま
 した。川柳会が出来てから日の浅
 い阿武山では指導してられる方
 も居られない様に思えるが、互選
 句は百七句連記されているのに驚
 かされた。二、三例句をあけて見
 ると

電燈の光りと思えばげ頭
 恋すれば色に出にけり乙女花
 の様に作品としては初歩の域を出
 てはいないが、川柳によってお互
 が水い病苦から抜け出そうと努力
 されていられることは尊く嬉しい
 と思う。光輪氏宛丸太氏のお手紙
 を少し抜き取って見た。

この病院には生れて三カ月にな
 る川柳会があり、お送り頂きました
 た「川柳雑誌」に川柳魂をかきた
 ててます句を投句しました。僕
 は「川柳雑誌」を手許において、
 今後作句の参考にしたいと思っ
 ています。十年を越える水い瘰癧で
 その間俳句を作っていました、が、
 いつの間にか句会の世話役になり



春の音ひとりの部屋の柱かけ	同	同	レインコート着ても妹春のいろ	同
夢夢夢春の音してこわれゆく	同	同	日曜は婦唱夫随で暮れかかり	山本 一傘
当らない易者と知っていて気にし	同	杉本たつよ	落ちぶれた方が話題をたんと持ち	同
麦の芽が音をたてるように伸び	同	同	貧乏は嫌い貯める苦勞もまた嫌い	同
ふくらんだ蕾へ春着ほしくなり	同	同	バチンコの元手を嫁った娘に貰い	同
梅の香が鎌もつひとへ届きそう	同	白石 由美	婆ちゃんが財布に紐を付けて呉れ	吉本 菁風
坐り換え坐り換えして急所突き	同	同	お目出度か和服ばかりの日が続き	同
十字架へマンボズボンでひざまず	同	同	逢引の電話か髭を剃り始め	同
中年の買物籠はよくしやべり	同	同	麻雀の横で待ってる程に惚れ	同
選挙戦に負けて保険の外交員	同	同	満員車女は手から先に乗り	小池 鯉生
両親がある幸に気がつかず	同	土守 蜻蛉	眠むたくて仕方がないと妻肥り	同
唇の薄さをかくすように塗り	同	同	バチンコの向い二円のたこ焼屋	同
停電のおかげ洗濯機も休み	同	同	平和がつづき自衛隊を志願する	沢田 美喜
盃を手にしてからはうまが合い	同	同	進学をせずスシ屋奉公望むなり	同
探訪の写真テレビの前で撮り	同	榎 水泡	アリバイを作って一夜家を明け	同
出世したほうが友情もちたがり	同	同	あのですね国の手形はまだ失せず	杉本 一鶴
新入社もう麻雀部へ籍をおき	同	同	雨のジーンズの窓を打ってゆき	同
御近所の子守りまでして祖母達者	同	同	お腹がイタイと年頃笑いこけ	同
停年の平が唄った枯すすき	同	北山 越山	赤線の名残りの柳春の色	石橋万古人
みおつくしそろそろ角が生え始め	同	同	大げさにアクビが出来る幸もあり	同
新語をばならべて親に口答え	同	同	二合瓶景気で団体客がつき	同
日本髪はずしてサロンパスをはり	同	同	ここの市になったと猪子に教え	平田 実男
退社ベル自由の鐘と聞く若さ	同	田口 麦彦	鶏糞のついた学資を飲み歩き	同
カミソリと云われぬ午後の椅子	同	同	霊柩車遺産がとれる顔で混み	同
テストパターン出	同	同	意外にも女性であったペンネーム	小倉美音子

ましてから可成に長くなります。川維友の会のお写真拝見致しました、撮影者として柳名を拝見しましたが、お顔もなく、御誌にも作品のなかったことが残念です。「川柳雑誌」は初めて拝見しましたが、中々立派な編集に感心しました。麻生路郎先生の御高名はかねがね承って居りました。バラエティに富んだ内容、御誌番傘を一度見た事がありますが、作品ばかりが、ぎっしりとならんでなんとなく句報の域を出ないものでした。少しもかたくならないで、和氣に溢れた川柳人としての温かさが溢れています。それからB判5号という週刊誌型の御誌ははじめて見ますので、驚きと共に興味深くすべてが私達に参考になる処が一ぱいにある感じがします。云々……

私は此の御誌を阿武山の柳人グループの方々が引張り合って読んでいて下さることを想像しています。貝塚、羽曳野、明和、谷向、布施と各療養所の川柳会の柳友達が毎日白いベッドの上で作句を続けていられる努力を尊いもの思っています。やがて阿武山の皆さまも、貝塚や明和そして谷向の方に負けない作家の出で下さることを期待しています。阿武山御誌の中にも

恋すれば鏡をのぞく数もふえ
 餅好きが買い込んでいる消
 化薬

丸 太
 用のある子の名が出ない子



狂うてるかと思ふ程気前よし
旅支度母に任せて湯に浸り
馬鹿力だけ売りものの職探し 西宮市
目覚ましのかわり茶碗の音がする
孫の舞姿へみえもなく拍手
オープン戦より
鬼ごっこしているスタンド (ホームラン) 大阪市
牛乳を色気のないのが立って飲み
人形の趣味生活と折合わず
勉強に父銭湯に追いやられ 天理市
パチンコのタバコへ象牙の パイプ つけ
根気よくカキモチをやく母も老い
よいとこがあれば嫁きやと逢 逢う 枚方市
澄みきつたお風呂で困る手の 場
その話もう聞いたよと乗って来ず
損をする人だけ乗れと無料バス 大阪市
坪百万の上に老舗の辻易者
うぶ声は頼りにしてる男の子
畳の間洋間に変える養子が来 玉野市
正直に云って怒らす鼻の型
法律で行けば世間は鬼と云い
子心にうちと隣りを見くらべる 小松市
味気ない訳はルールにくわし過ぎ
トボけてはいるが鼓動が早くなり
常識のほどは週刊誌の深さ 兵庫県
子の夢の小さいのにも追いつけず

同 同
同 大石 甘美
同 同
同 同
同 宮原 敏子
同 同
同 坂下 乙美
同 同
同 宮川 珠笑
同 同
同 米浪進之助
同 同
同 小谷 仙山
同 同
同 村井 城南
同 同
同 遠山 一雨

政治家へまともに憤る純情さ
国会で貶し仏になつて褒め 大阪府
甲に似た穴でよろめくのも四十
尋卒がママと呼ばせてイヤリング
紙雛を飾って娘春を病み 西宮市
厄介な荷物の様に見が眠り
大学が建ち下宿代はね上り
自惚れの小唄うつむいたまま褒 田辺市
審査員けなし自惚れ慰める
持て過ぎへ逃げ口上を考える
金なくて何の我が家の桜なる 鳥取県
衣裳比べなどとは罪なことを云う
団体のいたわり合つて老夫婦
紅一点女冥利につきて居り 小松市
姉さんに見せておいでと餡を呉れ
いい事が続いて困る赤字なり
貧しさが安物買いにしてしま 兵庫県
農機具がやつと揃つて父は老い
ラブシーン見る目も変る婚約期
味の素下手な料理に酷使され 貝塚市
一通り動評して買う市場籠
旅疲れ有料トイレで休憩し
わがまま同士ですと半分のわけ 笠岡市
競輪の濡手の泡をもう云わず
深呼吸してから課長の渋い喉
神様のせいにしてまた産む気なり 大阪市

同 同
同 谷沢 好祐
同 同
同 村上 球絵
同 同
同 室井八九寸
同 同
同 鈴木村諷子
同 同
同 関戸宗太郎
同 同
同 辻 文平
同 同
同 護川 梢月
同 同
同 出原 真奇
同 同
同 北 七星

八重
沢山
こうした句を見て心強いものを覺
えています阿武山療養所は今乙女
椿と桃の花が美しいようです。土
筆は掌にのるだけとれるとのこと
木瓜の赤い花もそろそろ開きかけ
ている静かな環境のなかにあつ
て、より良い柳詠を友として作句
に専心して下さることを祈ってい
る。

痴人の柳信(四)

木山 達二

雅兄よ、御手紙拝見しました。
齢が姉だから後妻でも結構と仰
言る——娘持つ親としてのそのお
気持、よくわかります。才色を兼
ね備えられた様子さんのことだす
から、求婚は降るほど有つたに違
いないと思います。察するところ
断りが忙しいままに嫁き後
れ
ではないのでしょうか。
一寸話を変りますが、昭和二十
八年八月十五日、あの悲痛な終戦の
言葉を聞くや否や、兄は忽ち二艘
のボンボン船を仕立て家財道具を
一物も残さず送り出し、其の間
に事業の方もチャンと整理して、
アツと言ふ中に引揚げられました
た。五千の日本人が住む町で兄が
引揚げのトップでした。実に鮮か
なものでした。
引越のような顔して引揚
げる
其時私は茫然と、何事も手につ
かずマゴマゴばかりして居りまし



待望の一億総白痴へ仲間入り 同
 CMソング歌って社裏終りなり 同
 待てど来ぬはず花嫁の写真が来 西宮市
 落第をして大物の夢を見る 同
 つっぱりをこうて長屋が仕上げ 宇都市
 選挙だけ済ませて移転の荷をま 宇都市
 尋卒の自慢養鶏場を持ち 同
 三十の孤独は親を手古摺らせ 同
 課長をくさして夫の肩を持ち 笠岡市
 畳まで拭いて後添い気が疲れ 同
 大臣の名をこっそりと子にもらい 同
 股火鉢小使部屋もスト評定 加賀市
 女工の手を握ってストラムの声はずみ 同
 催促をしないお医者でよく流行り 伊丹市
 テレビ料理どれもこれもバタが要り 同
 目のしわをかくしながら笑い合い 大阪市
 惜しまれて去るのパンザイ追っかける 同
 恐い者一人はほしい子に育ち 笠岡市
 末の娘を片附けてからこせつかず 同
 縁談は刑務所勤務を恐がられ 西宮市
 日記帳幸せな日か白く空き 同
 足でドア開けてエンセル顔を出し 貝塚市
 よく笑う歳へ育てた母の皺 同
 トラックのエンコに遮断機うろてる 大阪市
 買物籠まだ隠す気の腹に置き 同
 手のまめも消えて療養の日が続き 西宮市

同 大石 木綿
 同 鎮浪 翠月
 同 高木 桃里
 同 石川素百々
 同 小川静観堂
 同 西本 保夫
 同 木山 二路
 同 小西 寿美
 同 片岡 小風
 同 本村摂氏梵
 同 藤田一本歯

お隣りのアンテナがみる窓を閉め
 十二単衣まではブームも手が伸び 伊丹市
 高砂部屋借古場を見て
 ゴツアンデスと土俵の砂を噛み
 市場バスうどんの玉の客も乗せ 大阪市
 ファイルムの残りへ今日も母坐り
 みおつくし祈りに近い音で鳴り 若狭市
 春の霧魔法の国を見てるよう
 父ちゃんのこうもり傘で出る使い 西宮市
 入れずみをお風呂で知って遠ざか
 駅長の片手離別へ無表情 西脇市
 結局は酒の肴にされただけ
 フレッシュな苺お皿が染りそう 西宮市
 男の子ばかりの妻が雛飾り
 煙突の休みがつづく低姿勢 八代市
 引揚のさんさんなめる社会学
 いたずらを笑顔で叱る目出度い目 大阪市
 看護婦の笑顔葉になりそう
 根こそぎのフトンを干して春うも 有田市
 煙草銭もないのに保険屋すすんで来
 祖母になるのにもなか金が必要 鳥取市
 蘭などを咲かせて金のない話
 酔う金でよれたネクタイ替えなき 須崎市
 仲人が正直すぎてはかどらず
 看護婦の抵抗シビンほっとかれ 和歌山県
 戦死した子の年金で別居する

同 西沢 堅持
 同 藤留 淀月
 同 板東 若芽
 同 恒成 青児
 同 保西 岳詩
 同 今井 浪六
 同 永松 道雄
 同 中西兼治郎
 同 寺杣 花車
 同 近藤 昭夫
 同 高橋 蟠蛇
 同 木下 一休

た。結局のところ兄より一カ月半
 を後れて、三百人程の引揚団体へ
 やっと割込みました。
 いつもボヤボヤ事ある時は
 マゴマゴし
 ヤレヤレと愈々船に乗って見て
 弱りましたよ。ジャンクと云う奴
 なんです。図体は大きく出来てい
 るが風が吹いて呉れぬ以上、いく
 ら経っても自分の力では動けない
 代物なんです。それも西風でなく
 ては日本の方へは帰れぬと云うの
 です。尤も毎年十月ともなれば必
 ず西からの季節風が吹くに決つて
 るのだそうですが、あの年に限つ
 て中中にそれが吹いて来ぬので
 す。だから普通ならば十七時間で
 渡れる海を、一カ月近くもフラリ
 フラリした揚句命からがら下関へ
 上陸し、食うや食わずで郷里へ逆
 りついた時には、一家六名よく瘦
 せかけて居ました。持って帰った
 物と云えばリュックサック大小取
 りませ六つだけでした。
 兄の引揚の立派さと、私の乞食
 のような引揚とをひきくらべて、
 賢と愚の結果の厳しさ恐ろしさを
 いやと云う程思い知りました。
 人間の賢愚時折はつきりし
 引揚後三年にして兄は村長に就
 任、町村合併によって更に町長に
 なられましたが、私は毎日空腹を
 抱えて石ころ山の開墾に日をつぶ
 しました。其の結果が村の小百姓
 の末席を汚すこととなった次第で
 す。
 なるうとも思わずなつた小
 百姓



太陽だった恋人に子をつくり 松江市 舟木与根一

まだ少女階段のぼる脚の線 大阪府 同

情熱に濡れきれない不倅せ 大阪府 井上美恵子

春の孤独土筆の上に寝そべって 岡山県 同

入社が駄目なら先生にでもおなり 岡山県 榎原 万女

鶯をじっと聞いてる置炬燵 岡山県 同

改選期握手しそくに寄って来る 笠岡市 佐内 隆文

花の句を作って呉れと花が咲き 若松市 同

卒業にストと違った師の笑顔 若松市 三上 春雄

へボ将棋連合軍に助けられ 若松市 同

葬列が桜の花の下を行く 竹原市 松井 可笑

よいとこを他人になって見付け 大塚市 同

学割で卒業迄を遊んで来 大塚市 今西 生薑

真相はこうだとやはり嘘まじり 京都府 同

合格をして孝行の始めなり 京都府 當野 哲悟

奥さんに同情しているサロンの娘 西宮市 同

進学で頭痛の種の子沢山 西宮市 酒井 丹謡

頭痛膏はって指図に姑おき 西宮市 同

友の再婚に

一飛びにおばあちゃんに 高知市 須藤 俊江

酒の場で約束 小犬届けられ 高知市 同

ひとりでは自分のキモノよう決 竹原市 杉原 愛鳩

糟糠の妻を死なせて若返えり 竹原市 同

雪灼けもせずにひとり子育てられ 北瀬町 辻 晩穂

約束は耳元へする一人っ子 北瀬町 同

おむすびへ活字入るハイキング 今治市 越智 一水

配達夫礼を云われるいい便り 岡山県 同

春雨に濡れてハイヤーよく稼ぎ 岡山県 横山 一声

両親が無学で辞書を買ってやり 大阪府 同

朝寝坊ルージューの暇は余しとき 大阪府 水田 帆船

退け時に時計の下にぬっと居り 東京都 同

正義派が出て来て話ぶちこわし 東京都 竹本瓢太郎

別室で待たされている眼の置き場 下関市 同

御破算は読み手が悪いことにされ 下関市 藤田 雪峰

しよげている肩を叩きに友が来る 高知市 同

百田の錠前頼り留守にする 高知市 川竹 松風

先輩がようて酒まで手が上り 大洲市 同

石段が老いの信心ためすよう 大洲市 横田 放人

こう降 西宮市 同

女なる嬉しさ悲しさお茶を汲む 西宮市 樋口 寿栄

新機構変らぬ仕事の名が替り 竹原市 同

春らんまん車窓叩いてつめ込まれ 竹原市 山内 俊見

窓ふいてふいて淋しい一人旅 大塚市 同

選挙区の方をむいてる質問戦 大塚市 松谷 政俊

廃物の利用ではなしオブジェ 岡山県 同

労資対立どかりと椅子へ逆にか 岡山県 太田 蓑流

行事板今日の課長は酒らしい 西脇市 同

一向に子が手をあげぬ参観日 西脇市 大江 秋月

忙しさの連続妻の日記見る 西宮市 同

今頃になってカルタが出る炬燵 西宮市 御園生 江

花明り並んで歩く人もなく 大和五条市 同

パパ機嫌花の苗木を買って来る 大和五条市 尾米 絵見

又話が交りまして、昭和二十七年十二月に私はS新聞主催の句会へ出席の途次、兄を訪ねました。別れて七年ぶりのこととて勢い身の上話になり――兄は女子ばかり四人、私は男の子ばかり四人。よくも片よって出来たものだなど二人で笑い合いました。

そして兄は「いいじゃないか交換をすれば」と愉快そうに笑われました。それには私は笑えませんでした。町長さんの娘さんと小百姓の息子との縁組、提灯に釣鐘とはこのこと、てんでお話にもなりませんからね。冗談はわかっていきます。冗談だからこそ尚更の事笑えなかったのです。

冗談がいじけごろへついでさわり
も一つ話が交りますが、皇太子さまに引続いて清宮さまの御婚約、どちらへも世の人は一斉に拍手をおくりました。民主化まことに結構な事です。然しこれを逆に言ったらどんなものでしょう。つまり大から小へ働きかけるだけでなく、小の方から大へ働きかけるのです。これこそ本当の民主化ではないでしょうか。云いかえれば町長さんである兄に対し小百姓の私の方から

――いいじゃないか交換すればと冗談にでも或は本気で云えるような世になったらと云う訳です。
身の程を思えば思うこと云えず



ライターをパチリパチリと聞きこいて
 雛祭り男を二本立てへ出し豊中市
 手術をひかえて
 手術の日決めて出しなにつつま豊中市

エレジー 二句

飢えている隙にミサイル背負わ大阪市
 血税を敷きつめ滑走路のびる
 老眼鏡かけて魚の骨をとり西宮市
 手ばなしで喜ぶ主婦の観光団
 汚職した金へ虚栄の身をまかせ池田市
 齢四十老眼鏡をかくし持ち
 雨の漏り隣りも同じ音がする堺市
 水仙に似たるやさしさ娘は嫁ぎ大阪市
 酒で死に本望だとは他人の口出雲市
 空箱と紙くずホームに春が来る下関市
 失業のレツテルでない弁当持ち石川町
 偶々に見送られたら月給日大阪市
 モデル嬢指の動きも意識して神戸市
 帰化すれば傘下は同じ星条旗ハワイ
 隠れ蓑あればと思う十二月鳥取市
 顔の敏明るい鏡へ遠慮する小松市
 意地張って惚れ切った人取逃がし今治市
 せな流しまだまだ当分たよれそう福岡市
 遭難の奇跡あきらめきれぬ母宇都市
 友達のようにと体をかわされる大洲市
 婦人会茶菓子にお酒も出るそうな七尾市

同
 林 参無子

同
 武田軍治郎
 萬代句念坊
 佐藤 泰之
 宮藤 慈雨
 齊藤 巖
 種谷 敏明
 沢田 恵甫
 宮政 周防
 岩田八文銭
 筒井 吉枝
 越智 義夫
 本村珍ちく
 神田 豊年
 富永 健朗
 松高 秀三

代議士の手土産村に工事出来愛媛県
 年頃か膝を気にした坐りよう西宮市
 ペンだこがとれてどうやら箱が大阪市
 ゴツソリと空巢のように持兵庫縣
 春を着た和服ついついお見それし笠岡市
 恋心芽生えて笑い声たてず西宮市
 家建てる夢には遠い手内職兵庫縣
 よいかねと誠首の決裁無雑作に笠岡市
 見るだけの客へ店員つきまとい児島市
 飛込みの記事に落第しかられず兵庫縣

美習子さまへ

竹園にさかえ野菊の幸祈る大阪市
 バスコンの油断を妻にささやかれ鳥取市
 節句もう喜ばぬ娘で恋を知り松江市
 紙雛の桃満開の事務の窓西宮市
 生理休暇とれば見合いとからか河内長野市
 プーンのとこへ嫁く気できいと云い奈良縣
 何のその横綱位と思えども山形縣
 哲学を学び神秘も信じたし大阪市
 腹立てに行く税務署へ靴を履き宮崎市
 一人旅車窓で目につく昼の月広島縣
 テレビにもラジオも飽いて春の宵大阪市
 就職へ母の無いのが気にかかり大阪市
 火吹竹吹いた暮しが懐かしい玉島市
 新聞に茶わんの見えぬ朝ごはん神戸市
 湯上りに桜色して妻若し西宮市

河本南牛史
 森 丙子
 堤 勝三

井石 悟朗
 谷 無閑
 田中 妖人
 三上 芙路
 森本黒天子
 秋田 好子
 菊地 白葩
 丹波 太路
 野口卯之助
 山田スミ子
 小畑 東二
 松元 利行
 井上 旭峯
 中西 秀男
 塚田 東雲

会 員 募 集
 ★ 船場にできた 小さな料理教室 ★
 本町2丁目(堺筋)南半丁西側
 大 阪
クッキング スタジオ
 ユニオン洋装店階上
 大阪市東区北久太郎町 2-17
 TEL・(25) 4943

いや、とんでもない横道の方へ
 話が反れました。
 よろしゅうございます。様子さ
 んについてのお話は確かに承知し
 ました。一日も早くよい話を持つ
 て参上出来るように心がけましょ
 う。私の親族に仲人件数二十七回
 と云う記録を持つベテランが居り
 ますから、これにも連絡をとって
 置きます。
 あれやこれやと書き並べました
 が、最後に私の言いたい事は、何
 をしても兄には遠く及ばない
 後ればかりと居る私が、息子
 の結婚だけは兄に先んじたと云う
 事です。勿論こんなことは自慢に
 はなりません。おかしいなと思っ
 ています。
 仲人もまた宮様のファンで
 あり
 どうも失礼しました。

・特集・

わが家の句



左利き半数

若本多久志

ごくありふれた家庭で特集のご趣旨には縁遠いようですが、少し披露致します。

豆秋さんの句に「大臣になれぬことだけわかったり」というのがありましたが、私も真にその通りで今さら、大臣になろうの松下幸之助になろうのという野心はサラサラありませんが、川柳以外に何の楽しみもなく、子供達の養育ばかり考えて働いて来た五十六年間を顧みますと働き蜂のわびしさと悔を感じています。

家内も同じ様に年を経て、昔は舶来のコティがどうのと言ったくせに、近頃は香水も口紅も忘れた種族になって、女性の本質たる嫉妬心すら無いのかと疑わせます。

二男は（長男は夭折）一昨年学校を出て

自動車の販売会社に勤めています。安サラリーで何時になったら嫁を買ってやれるのか頼りないことです。勿論月給は一文も家へ入れず

飯代も少しは入れてと母のぐちという有様です。

長女は昨年、東京の公衆衛生院を出て目下、栄養士として伊丹保健所に勤めています。こんな娘をお嫁に貰うてくれる人があるやろうかと思わせる超現代娘で、頭痛のたねです。

二女は今年、武庫川女子大の英文科へ入りました。小学校一年から高校卒まで十二年間皆出席だったので、遂々、大きな御褒美をねだられてしまいました。

三男はメッ子で、余り出来のよい方ではありませんが、今年辛うじて高校へ入学出来たので張り切っています。私達夫婦共に左ギッチョなので、五番目のこの子はメンデルの法則通り、劣勢遺伝の完全な左利きで、なかなかの剽軽ものです。

ですから、拙宅の食卓は片側に左利き三人、片側に右利き三人、向い合って同じ方

の手を動かしている風景は、珍妙乍ら又楽しい公平ぶりです。

○

（私）
五十年働き蜂の悔もあり
民主主義俺の老後は寂しがる

（家内）

うちの女房香水なんか忘れとり
又パイプですかと捜してもくれず

（二男）

嫁もろてやれるサラリーいつのこ
と
見解の相違黙って箸をとり

（長女）

恋してるらしいわが娘に幸よあれ
もう二十言うてもきかぬ娘に育ち

（二女）

娘もう朝の散歩について来ず
何となく父親が好き女の子

（三男）

末ッ子が大学までの身をいとい
出来ぬ子に机の位置を変えてやり

親馬鹿

北川春巢

初めて子供が生れた頃は、本に書いてある通り眠ってばかりいるな、と思いがら、その枕元に座りこんで楽しんでいた。

しゃっくりあくびくっくしゃみと赤子忙しい

カメラに撮ったのもその頃で、ヨチヨチ歩きを始めると

ピント合わず父へ子供が動き過ぎ近所へ遊びに行くようになると、自我の目覚めというのか、連れて帰ろうとしても、中々いいことを聞かない。

またあした、フンと素直な子に育ち

子供の数がふえると、戦争も激しくなってきたるし、もうカメラどころでもなく、ズック靴一足ずつ買うのも大変ということになる。

少年の欲野球帽野球靴
この句、子沢山だということを入れて読んで頂きたい。日曜日など、

うどん派とパン派子供ら二派になり

どこかへ遊びに行くにしても、電車に乗るだけでよい、という間はまだやり易い。

父と子と車窓へ向いてガムを噛み百貨店へ行っても、屋上の「子供の国」へということになると、乗り物が一回十円にしても中々帰ろうとはしないのである。

子を連れて千円使う楽しさよ

ぐらいはまだよい方。学校へ行き出すと、その成績に一喜一憂するのも親馬鹿である。大阪の常盤小学校の一年に入った長男が学級委員になった時には

親馬鹿の話の種が一つふえ

その長男がもう高校へ進学したのである。大学の入試ももう目の前。

流石吾が十対一をパスして来

は親の淡い希望とでもいうか、現実には親馬鹿の大器晩成まだ信じ

の成績である。
英語の質問ないかないかと父はひま

教えてやろうにも、さっぱり質問がない。怒り初めやお父ちゃん無視される。

正月早々からこれでは、父たるもの親馬鹿と言われても仕方がない。

子供のことばかり書いたが、妻のことにふれなければなるまい。

赤いものうちにも乾せる嫁が来るで嫁いで来た妻ではあるが、大勢の子供を産んだ今日では年も取る。

何ラインか分らぬ服で妻も老けである。

私自身も年を取らぬとは言えないうすいとは言わず帽子を妻すすめ

大家族

須崎 豆秋

こほろぎは敷布の上にボツンと居日曜の裸体ヒヨコにとりまかれどないしまししょうか猫が風邪をひき

猫抱いて窓から月を見せてやる

私のうちでは、ネズミも、蠶繭も、油虫も、なめくじも、蜘蛛も、……生きた生きもの、なんでも家族として待遇して居りますので、向うでもよくなつていくれて、別に逃げ隠れもせず、至極のんびりとして居り、賑やかな大家族です。

汚れ目のわからぬ犬の仔を貰い

父うさんに似て犬の仔もよう食べる

やがてにも犬もトマトが好きにな

うそにでもうまいというてやる夕餉

いわしいわしなすびなすびの日はつづき

家内も、犬猫のめし、ヒヨコ、カナリヤの餌から、私の晩酌の肴等々まで、たいへんだらうという理解をもつて、たまにまじいと

も思つても「うまいうまい」と心にもない

それを真にうけて「いわしいわし」「なすびなすび」の日は続くという喜劇になつて

しまうことがあります。

何時からかほんまの歳を見失ないお帰りにならぬ枕のただ白ろく

問題になる雨傘を借りてくる

長生きをしなはれと匙投げられる

凡天のあましまさで、私もたまには歳を忘れて脱線することがありますが、そんな時でも私は決して家内に逆らつたことはありません。

女房の五黄の寅へ逆らわす

而し、家内を映画へでもやつて、一人つきりになると、

たれも居ぬので天井へ馬鹿野郎と、どなりつけてやるがあります。

自作漫評

真鍋 一瓢

1 借金の匂いも交る木の香り

2 生存競争今日も味噌汁オンリー

3 嫌な隣りだが風除けの位置にあ

り

4 妻は又妻で重荷を負うてる気

5 銷夏法僕には妻の里帰り

6 良妻の腕ほろ酔いの間に寝かせ

7 男運妻の手にやないやない

8 うちの娘も猫や杓子に交つとり

9 また鯛子供はトトが嫌になり

世帯の苦しさに追いつめられると、何かに訴えずに居れないものか、私の句には家庭の句はかなり多い。

1 のやつと出来上つた真新しい木の香にもどこやら、嫌な匂いが込みついて居た「ゲップ」胃が悪いせいではない。

2 は朝々の貧しい食卓、送ってくれる外面如菩薩は三軍を叱咤する將軍の顔に見える。

3 はもし夏は？と、いつかの句評で心配して頂いたが、風をいとう時季と、風が要る時季では一度風向きが反対になる。その意味で嫌な隣を焼き払いもせず置いてやっている。

4 位私に取つて辛臭いものはないのだが、妻にして見れば吾気坊主の親父が何を仕出かすやらと一度渡した財布の口は、開かざる事にしたが口を閉ざした如く。

5 は数年前迄はまこと都合よく行われていたものだが最近食糧事情の好転から、夏休み利用食の伸し帰省の要もなくなり、女房の腰も重りがち、幾年か続く豊作我れに利せず、新しい銷夏法を講じざるを得ない有様と

はなりました。

6 兎も角も高い酒を呑まれた上、おなじ事を繰り返す話にいつまでも相手になつても居れないと、思ったのか、枕元に紫のシェードをかけた電気スタンド、木差に木と至れり尽せり見たいに私を寝かしつける妻、ハハンは思つても御調子に乗つてやる、私はどこまでも愛妻家である。

7 妻が運命論者でありそれに焚きつけた易者が何か私に含むものがあるかどうかは分らないが、易とか八卦とか云う非科学的なものが、未だこの世にのさばっている事を許しておいて良いものでしょうか。いわんや私の立場においておやです。

8 この句、上の娘がどうやら高校も終りに近い頃でした。やれやれと云う親たちの心を知るや知らぬや「お母ちゃんお小遣いこれだけ？ 私かてたまにはお好焼くらいい食べたいわ」ああいかにせんやです。

9 拙作「金あれば買える世なるも恨めしや」それなのに頭があつて尻尾があれは、必ず栄養とばかりに偏重と云う言葉を

大阪・名古屋・伊勢を結ぶ大動脈 近鉄特急ダイヤ

大阪上本町発	近鉄名古屋発	宇治山田発
7.40	8.00	8.40
8.40	9.00	9.40
9.40	10.00	12.40
11.40	12.00	14.40
13.40	14.00	16.40
15.40	16.00	18.40
17.40	18.00	19.00
18.40	19.00	20.40
19.40	20.00	

上本町	9.40	18.40	名古屋	10.00	19.00
は	お	便	利	な	新
・	印	は	二	階	展

5日前から発売 近鉄特急券 交通公社

近畿日本鉄道

知らない如く、むごい親だと思つてか「お母ちゃん僕おトトが嫌いになった」

娘は友達

田垣 方大

今年から三女が中学一年、次女が高校一年、三十一年に高校を出た長女が、やっと洋裁学校を卒業してくれたので、これから「お婿さんやーい」というのが、昭和十一年に結婚した、私達の家庭の現状です。

こういうように四対一と完全に、女性群優勢の位置に居りますと、父権なんてどうでもないことで、娘三人共私を友達ぐらいにしか考えていない、殊に長女なんか時々「お父さん（呼ぶのはやっぱりお父さんという）映画見に行こ」と誘いよる、私ははん博子の奴そろそろ小使銭欠乏やなど、わざと意地悪く「お前のおごりか」と切出すと「うんおごるおごる」と引張り出しておいて、映画館の前まで行くと私の顔を見て「ニヤッ」と笑う。この「ニヤッ」におやじは完全にシャッポを脱いで、切符売場の窓口へゆくのです。次女も三女もなかなかお茶目で、私が妻と言ひ争いでもしている、文句なしに妻の味方になって、総攻撃の火ぶたをきいて、こてんこてんにやっつけてくる。父親なんて実に馬鹿なもので、妻にお面をとられると、むっとするが子供にやりこめられるとシャッポにさわりながら、内心頼もしく思っているから、いい気なものである。だからそいつを見抜かれておやじくみやすしと、友達扱いをされるのかも知れない。又うちの娘達は偶然道で

会うと私には「オスッ」と言つて手を挙げた、私の隣に居る友人には丁寧な頭を下げる、知らない友人は妙な顔をして「あの娘さん誰や」「ああアレウちの娘や」「君にあんな大きな娘さんあるのか」「馬鹿にするな俺の頭を見い」「なる程然し君等親娘は気楽な親娘やなあ」というような訳で友人をうらやませていたのである。

○

親馬鹿の納得いかぬ通信簿ワイフにも出張報告せにやならず茶の間もう妻と長女のものとなり子がみんな寝て家計簿を見せられる

支那ソバへ夫のどてら羽織つて出長女にも俺が酌いだるお元日こうきたらこうと帰宅のベルを押す
デフレかてお向いさんは着ています
洗濯器もう隣まで攻めてきた
ジャンケンで蒲団をたたむ母の留守

わが妻・わが子

大鶴 喜由

湯の山のかじかに妻も寝たろうかいて湯と散財の反面に妻はことなきを祈りつつ遠く思いを馳せて静かに床に入る。
子のカメラ俺と女房を引つつかせ十三参りの嵐山の橋のたもとで体験した。
妻の座の厳しさについ嘘をつき今頃まで何処にと一かつされた上白粉まで

かぎ廻されてはつい嘘も云わざるを得ん。妻てふ杭の綱の長さを廻るだけ遠歩きしたつもりが手綱のとどく周囲だ。

主婦の友が教えてくれた寝白粉。妻もけんたい期を乗り切ろうと努力する。

また大きなことばかり云うてと女房

事の成就せぬ例を女房はいやと云う程見せつけられている。結局はアカンアカンと引き止められる、こんどこそは大丈夫なのに。

あなたなんだいあんたなんやの軒並び

妻も初めはどもりながらもあなたといひ三本指をつけて送り迎えをしてくれたが長屋と貧しさとそれに他人の手前云えなくなる。新妻の頃とかびのはえかかった頃を比べてみた。

女でない女女をはがゆがり

女でない女即ち娘が遊びに来ておぼちゃんあない云われても黙ってんの、云いよしと迫る、男を知った女には服従でなくあるものがある、それは巻いて巻かれろとも云うか。

どんな子になるか教える方も知らず

子供が大人になる頃の社会にそなえて落伍者にならぬよう新しい教育を仕込んでいるが、さてどんな子になるかどんな社会になるか先生も知らない。

中学生大人を真似て子が生れ

これは新聞に出たある女中学生を詠んだ一駒だが僕とは男中学生だからと安心したら大へんなことになる。小説に映画に歌詞曲に街頭に男女の相寄る心をそそっている。妻一人養えるサラリーとなるにはまだ

品質優良

先カペン

TACHIKAWA PEN

大東市東区常盤町一丁目十一番地

立川、ペン先株式会社

タチカワペン
タチカワゼム
タチカワ画紙

十年も十五年も先なのに。

僕の家庭

木村 水堂

僕の扶養家族は奥さんと二男三女の六人で家族手当の多いことでは僕が張出横綱になつてゐる。

姉弟二人で育つたうちの奥さんには五人の子供が多く感じ煩わしくて仕方がないらしい。七人の兄姉妹で育つた僕には五人ぐらいいは多いと感じた事はない。

しかし食事の時はたしかに賑かである。

牛肉が親にあたらぬ子沢山

新築して三年もたない現在もう襖は裏へつき抜けているし、柱には削り痕があり畳もナイフでところどころ切つてある。貧乏世帯には却つて似合うだろうと思つて修繕もせずにはつてある。

それが奥さんのお氣に召さず、「一番スカつかんだ」とこぼす原因の一つにもなっている。

つまり甲斐性なしの亭主を持ったと後悔遊ばしているのである。

云い負けた養子の派手な蠅たたきそのことについてはこちらにも云い度いことは沢山あるが(さわらぬ神に祟りなし)と云うから我慢している。

生れつき脳の弱い僕でも年山機嫌のいい時ばかりではない瘦せても枯れても一家の主と云う資格で、堪忍袋の緒を切らなければならぬ時もある。云うことがあるので酔うて帰って来

云い分は養子の方がたんと持ちえらそうな喉を切ってもつけ焼刃だからながつづきしない。アルコール切れると養子らしくなく

りこうなるともういけません、奥さんの猛烈な反撃が開始される。

父ちゃんが叱られたのをふれ歩きうちの子はみなおししゃべりである。将来アナウンサーにでもしようと思う。

母に似て口の達者な子に育ち僕は奥さんにこそ頭があがらないが、一族には僕なりに腕みを利かしている心算である。

御本家の格で養子が座らされ養子ではあるが本家の当主にて僕と奥さんとは四六時中いさかいをしているわけではない。むしろ欣々相和している方が多い。助けられたり援けられたりの仲である。

喧嘩していても氣にする妻の咳

夫婦とはよいものを知る水枕

野人の僕と田舎育ちの奥さんとの間に産れた子供だから行儀作法をわきまえて居らなくても不思議ではない。他所からの到来物などはその日のうちに五人がかりで始末してしまふ。江戸っ子が背越しの銭を持たない如く。

(美味いものは背に食え)の諺を忠実に実行している。僕は子供等に基本的な道義の善悪だけを教えてその他のもろもろな事は教えてない。年頃になれば小笠原式を行儀ぐらゐは適当に会得するだろうと信じている。大きくなるに従って父の欠点を指摘したり軽蔑したりして、だんだん手に負えなくなつて来る。

父ちゃんは養子やなあと舐められ

る父ちゃんの威厳をこねたフラフー

全く困ったものである。とは云うものの子供は可愛い方がいいものである。二男の末っ子がやつとこの四月から一年生になったところだからもう十五年ぐらゐは働かねばならないだろう。しんどいことではあるが、これも親としての楽しい苦労の一つである。

家族は対等

市場没食子

苦労は思いませんと繕う妻よ妻達者大なる尻も尊つとけれ妻老ける老けるどこへもゆかぬまま

雨衝いて高中小と通学し

長男粟大入学

父の跡継いでおまえもくすり屋かそれそれに子等も学生印を持ち末っ子のやつとん節を笑うて呑み警職法狙上のにせて父と子が君の僕のと五十になつて仲のよき

一口に言つとわが家はみんな対等です。わが家の戸籍謄本を見せますと、妻と子が三人小生と合せて五人暮しです。いいえその外に私の父、子供達には祖父が同居して戸籍の筆頭人です。今年三月長男が大学を出るし、長女が短大を出るし、どちらも就職するのに戸籍の筆頭人が祖父では嫌だから分籍して欲しいとの申出により、

二年後は自然に分籍なるものを今年三月に手続して分籍したので、私の父一人が戸籍を持って同じ番地に同居している訳です。妻は私が養めるのでないが上人間で、かつて子供等に叱つた事はありません、勢い私が愚痴を聞いて子供を叱る役目になるのですがその私も口下手で、やり込められる方が多いので叱らぬことにしています。それで子供等とも友達みたいなような口のきき方で、時には末っ子と畳の上で相撲をとつて祖父や妻に文句を言われることもあるがこの頃では高一に入学した末っ子にとても勝てません。議論もやりませんが、世代の相違で長男や長女に笑われたりです。それでも何かの用事で遅く帰ることがありますと淋しいのか寝つかれずにみなが待っててくれます。勿論寝間の中でですが娘以外はもう私よ

僕に似ていたら

河村 日 満

通信簿意地がないにも程があり



安産のために

ママカレシム

姉妹品 ワタカール・ピタム 二〇〇錠 三〇〇円
ビタミンB1・B2・AM 二〇〇錠 三〇〇円
ピタミンB1・B2・AM・D・鉄 配合

僕に似ていたら、もう少しは出来ねばな
どと、子供の前では云いますが、長女も、
次女も、長男も、そして末っ子の次男も、
どうして断然成績が悪いのが不思議なほ
ど。先生に云わしむると「出来ねばならぬ
のだが」とにこしてしまつて、取りつくし
まもない。通信簿を貰つて帰つた日あたり
は相当神妙なのだが、いつの間にか又生地
が出てくるのだろうか。それが又四人が四人
共だから嫌になる。

働いてきた手大きく子に見せる

鍛冶屋が本職の僕だから、手の大きいこ
とは当然だが、その大きさが特大であると
ころに子供達のコーキ心がある。

妻と来て市場の中も歩かされ

妻と二人でよく映画見物に出掛けるが、
必ずといつてよくらい、市場の中を歩か
される。それは台所を所持している妻とし
て、夜の準備はかせないし、子供達への
土産も必要だから、この土産があるから子
供達も僕達を押し出すようにしてくれる。

酒買ひに行く役弟へ譲り

村なかに酒屋がないので、隣り村の酒屋
まで行つてくれるのが次女の役、その酒屋
の娘さんが同級生になつたためもあるが、
中学生になつた理由の方が大きかつたよう
だ。そこで役得のつり銭を放棄して弟へと
いうことになつたらしい。

学歴をつけねばおかぬ親の気の

いずこの親もそうだろうが、僕自身、身
をもつて経験している。そこで是が非でも
学歴をというところだが、それがせいせい
高校あたりだから情ないものだ。

×

母の日を母は笑つて飯を炊く
家内の母はよく出来ている、と僕が口に
出して云えると同時に僕の家へ来た者は、
「いいお母さんですね」と云わぬ者はな
い、若しこの母に僕が逆つたりしたら、そ
れこそ村中から批判を浴びるだろう。

×

このままで死ぬかと泣いてみたり
して

治るかとおつさり医者でない僕が
病妻へある日はアチャコほどおど
け

母親の看護は医者を驚かせ

僕の一生の中で、この四句は特に心に残
るものである。人様の目にはこんな句があ
るうが、この時の妻はもうあの世へ確實と
みられていたもので、人間なんてはかない
ものだ、必々感じさせられていた。「子
供達を頼みます」なんて云われてみない
な、僕でなくともゴツときますよ。こんな
時の句が何故忘れましようか。

父の勤務評定

伊藤 茶 佛

長生きを氣にする母に手をつかれ
米寿を迎えて、顔艶もよく腰も曲つてい
ない母は、お寺詣りが日課でもある、大き
くなった孫達に本気で輪を氣にする小胆な
ところもあるが、トランジスタラジオを
結構楽しんでくれる。

強いこと言うても妻だありがたし
もう更年期でもあるのか、高血圧を氣に
して磁石の腕輪を離さない。雑用で旅の多
い私と出不精な妻、二人で出歩くことが少

ない、それが妻には不平らしい。京都に住
む長男の結婚以来、一人旅もする妻であ
る、さすが子供のこととなると別らしい。

手に負えぬ子供に育て叱るくせ

末っ娘に男くさいとからかわれ
あまやかせずきたお蔭で末っ娘は手に負
えない。娘に言わせるとお父さんの罪らし
い。神経質なところもあるが、横着などこ
ろも持っているオテン馬娘である。高校一
年生にもなったから自分の娘でも愛めてや
らないと縁談に降る年頃でもある。

あれ買えば喜ぶ顔が眼にうつり

女一人の末っ娘である、どうもお父さん
がいけないらしい。上の男の子はボヤクこ
と、お土産は言わずと知れた女物。

食卓の話題に父がしどろもど

夕食は一家揃つての団らんであるがどう
も父の勤務評定に落ちつくようである、末
っ娘を甘やかせるのも父であり、兄弟揃つ
ての酒豪も父である私のなせるわざである
らしい。

父さんが帰る部屋中酒くさし

会合の多い私は、上機嫌になつて帰るこ
とも多い、呑めば寝てしまふ父ではある
が、酔う程に「馬鹿野郎」も出る、しかし
この「馬鹿野郎」が私の上機嫌を意味する
虚勢であるから面白い。

妻の眼にあなたどこまでお人好し

自分でも不思議な程にお人好しである。
頼まれると断われない損なところが親譲り
らしい。

娘は年頃

金井 文 秋

鏡曰くもうオッサンの歳だつせ

色紙短冊
書畫用品

大坂戎屋しん

丹精堂

モウヤニニヤ

若いつもりで居つても道で他人からオッサ
ンと呼ばれてギョツとした僕、無理もない
もう三人の年頃の娘があるのだ、鏡は正直
である、うかうかして居れない。

箆笥一つ買えば嫁入りかと思われ
父のような人なら嫁くと娘の理想

夫婦喧嘩を一度もした事がないのも娘には
たのしいのだろう、その中でも三女は親
に似ず明朗で出来がよいらしい、学校でも
目立つ存在で、それだけにまた損もある。

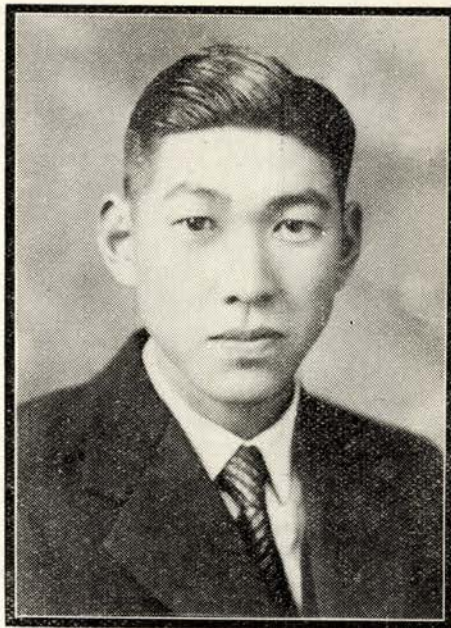
お宅のは出来ませうPTAの寄附
その三女も高校に進学する、他人は大丈夫
と言つてくれるが、母親としてはじつと落
つけない、天神さんにもお詣りして来る。

もし凶が出たらとみくじよう引か
ず

喧嘩こそしないがよくふくれる女房、それ
がいつのまにか娘も似てくる。

ふくれる娘妻に似て来て苦笑させ
こんな恥を書かいてもとまたふくられた
親子して帽子を忘れ傘忘れ

こんな句を作つた時には、あんと長男(六
年生)そのままと大笑いしていたくせに。



3月19日午後10時50分藤田血で水服された川柳不朽詞会
維持会員宮田不二氏(明42・7・6生)のありし日のおも
かけ。(法名釈常昇信士)

ああ宮田不二氏

川村 好郎

不二さん、と呼んでも君は応えない。
だがこうして目を閉じれば君のよく肥
えた丸い元氣な顔がはつきり見えてくる
し、無口だったあの一文字に結んだ口が
何か言いたげに私にせまってくる。
不二さん

あなたに初めてお目にかかったのは松
阪倶楽部の川柳講座だったと思う。路郎
先生の直接の御指導を受けた生々庵、杏
林、古方等の先輩諸氏の横にどしりと
坐って黙々と作句していられたのが君だ
った。だから今から十七八年前で私が本
気に川柳をやってみようと思つて入会し
た時で君はもうベテランの一人だった。
私はただあなたは口数の少ない近寄り難い
むつかしい人だナーとしか印象に残って
ない。ビールが好きで戦争中特別のはか

不二さん。

もう二度と逢えぬと思つていたが縁が
あったのだね、東京で再会となつたの
だ。二年程だったが川柳のお蔭で加速度
に親睦の度を増してきた。そして私は東
京を去りまた君とは別れた。また逢え
る、また逢えるとその日を楽しんで時々
の文通は絶えさなかつたが遂に永久にあ
なたとは逢えぬことになつてしまつた。
不二さん。

思い出をたどれば懐しいことばかり
だ。山雨楼氏、白星氏や君らで川柳東京
支部を結成した頃、君は遠方にも関らず
よく来て下さつた。それでもあなたの無
口には参つたよ。しかし会員には受けも
よく無言の指導をして下さつた。

山雨楼氏、根岸東夢氏、そして遂に君
も逝つた。私もいつかあなた達の後を追
うが、ひとつ川柳冥土支部でもやろうじ
ゃないか。あの頃の句を偲び、合掌。

働けど働けど蟻やせている

らいでビールの
の行列を二回
並ばせてくれ
たことはあの
時のビールの
味と共に忘れ
ていない。そ
して戦争が二
人をその儘離
してしまつて
君が北海道へ
行かれた事を
知つたのは終
戦後やつとし
てからだった

不二句抄

賀状書くスピード落し思うこと
余つ程のすばら仙人掌こりゃいいや
赤ちゃんを割れもの注意の型で抱き
そんなこと有つたかネと偉くなり
通動車女らしさは云うとれず
写真向つて一人置いてと無視される
何一つ揃えぬ方が先に嫁ぎ
暖冬異変さらの手袋忘れて来
一昨日と昨日の記憶老夫婦
斯かる世に晝は時で作るもの
懐しい母校寄付には近寄らず
お芝居で観る吉原は文化財
歯の抜けたところから女どつと老け
用心の傘は成程じむさし
草人によく似た一人エキストラ
時間潰しならとデパート教えられ
いささかは辞して結局御就任
これ以上肥えては困るクラブ振る
純白な手袋もよしバスガイド
煙草の火若い女性に所望され
海の魚獲るに制限ある世とか

筆持てばすら書けて話下手
募集々々何んや園児のことかいな
幸福な枕カバリーの白日日
春風はいいなからだも軽くなり
生前に予告が欲しい熱章よ
宣伝カー今日は納税期をどなり
とてもよく出来た子でした葦族泣く
駅弁を疊で食うてまじいこと
筋よりもロケ地が僕に懐かしい
一日の始まり瓦斯へ点火する
季節とは争えぬもの蚊も無沙汰
おまわりさんを若いと思つ程に老け
暑いから昼寝出来るも自営なり
美しい上眼で上へ参ります
謎の通りか葦屋御増築
勤人と云う足フォームをも走り
お下劣な一コマもあり人生よ
怒らない修養をしてよく儲け
車庫の為めだけの車庫前停留所
紙芝居の悲劇を好くも女の子
俳優としても手錠はつめたかろ
ほけなすもそろそろ汚職出来る地位
川の字に寝て極楽が判りかけ
郷里の息子の嫁にと思つバスガール
制服の巡查も好きなスポーツ紙
血圧は高し葬儀社よく目立ち



業平の立田越え

富士野鞍馬

御夫婦の名歌立田の川と山

(タル七三)

この句は、在原業平とその妻との歌に、どちらにも「立田」が入っているので詠まれたものであるが、その後の柳多留九十二編と百六十六編に、下五を「山と川」と置替えて作られている。その歌と

ちはやぶる神代もきかず

たつ田川

からくれないに

太くぐるとは

とその妻の、

風吹けば沖津白浪

たつ田山

夜半にや君が

ひとり越ゆらむ

の二首である。

業平は、平城天皇の皇子阿保親王の五男で、母は桓武帝の皇女伊都内親王、天長二年(八二五)の生、翌三年、異母兄行平と共に「在原」の姓

「風吹けば沖津白浪たつた山 夜半にや君がひとり越ゆらむ」という、夫の身を気づかう愛情のこもった歌を詠んだ。それをきいて、業平はすっかり感銘して、それ以来ぶつたり河内の高安の女へ通うことをやめてしまった。その歌の効果は大したものであった。

らんとめも知らず河内でたたみ算 (拾四)

らんとめの後子高安で鹿の声 (タル六七)

名歌をほしらす河内で待ちぼうけ (〃四七)

「風吹けば」の歌は「らん」止めになっている。河内の情婦はそれから待ちぼうけであったであろう。

というわけであるが、「伊勢物語」の他の一節によると、この高安の里の女のところへ、たまに出かけて見れば、手づかみで飯を食って、まことにだらしないので、愛想がつき、それ以来行かなくなったともなっている。

またこの河内通いは仮作であるらしく、

「二夕話」に

「伊勢物語に、河内の高安の郡に在中将の通ひけるよしは、彼書に侍りき。されど其跡いづくとも知らぬを、かしこの土民は其跡さだかに侍りとなん。中将の垣内と名づけ

たるすなわち是なりとあり。これは伊勢物語を作り物なりと知らで、かやうの説を世に伝へたるものなり」とある。しかし、いずれにしても、業平の河内通いは川柳になっている。

在る井戸を置いて河内の木をくみ (拾四)

高安へ通ふたんびに井戸の事 (〃)

と筒井筒からの恋女房のこと (〃)

を詠み

業平が昼寝はだいが当があり (拾五)

名の高い夜這い竜田の山を越し (タル二九)

河内まで通うは足もまめ男 (〃一四二)

河内まで好きには夜半に身をやつし (拾四)

夜半にはそつと着る河内編 (タル四五)

河内木綿も高安の値段付 (〃九一)

とセッセと通つたらしく川柳にしている。「河内編」「河内木綿」は、それを掛けた狂句である。また細君が歌を詠んだことを、

有常が娘きれいならんきなり (タル四一)

夜半にやとゆるすところに意味があり (拾五)

角立たぬ歌で操の立田山 (タル一六)

などと作り、といつても腹が

立つただろうと、

とは詠んで侍れど腹はたつ田山 (タル九八)

下々ならばしみじみ腹が立田山 (〃四四)

夜半にや女房ひとりで腹を立て (〃五七)

起きつ寝つ思えば腹の立田山 (〃八五)

と詠んである。

そしてまた「風吹けば」の歌を利かせて、一般家庭の風景をも句にしている。

うすくは知って女房の風吹かば (タル二五)

風吹かば女房一向油断せず (〃三八)

風吹かばぐらいで亭主とどまらず (〃二七)



土手をゆくらんとは女房歌人なり (七五〇) 風吹けばどころか女房嵐なり (拾四)

「土手をゆくらん」とは、土手八丁で吉原行である。

天才的歌人で女好きといわれた業平も、元慶三年(八七九)には藏人頭に任ぜられた

川柳歳時記 (8)

水谷竹莊

春の巻 (二)

川柳と貝の話

蛤のようやく焼けて炭が消え 京丸

あさり汁お椀の砂を見直され 丸

昨年度の芸術祭テレビ部門で文部大臣賞を受賞、その後例の著作権問題で騒がれた「私は貝になりたい」が映画化されている。

その物語りの最後に「いっせ、だれも知らない深い海の底の貝、そうだ、もしどうしても生まれ変わらなければならぬのなら、私は貝になりたい」と一言残して無実の罪に死んで行く、それが題名になっている様だが近頃の若い人の間では、流行言葉の一つにもなっている、貝の流行言葉では、昔から「その手はクワナのやきはまぐり」の言葉があるが、

が、その翌年五十六歳で亡くなった。

業平を見のがしにする大社 (タル四七)

業平は高位高官下女小あま (末初)

等は、上下多数の女に關係したことを表わしている。

焼蛤と桑名は昔から、はなれないものと見える、蛤は、桑名の海岸でよくとれる、潮焼うしを吸い

物、むき身にして蛤鍋、ぬた、時雨煮などの料理がある。殻をつけたまま料理する場合は、塩水につけて砂を吐かせることがかんじん

である、潮焼にする時には貝殻を開かせないために、あらかじめ小出奴でジシタイを切り、化粧塩を

して火にかけて、柱のはなれた頃あいを見て、器に盛る、柱は火の通った方から尻にはなれるから、

身が上ぶたの方につき易い。松かさで焼くと特別にうまい。又蛤のむき身を、辛子酢味噌などで和えるのも通なものである。焼蛤は関西本線、桑名駅で下車付近の食品

店で一串七円ぐらいで売っている。

竜宮の春がちらばる桜貝 平六菜

平六菜

古代人の食生活には貝は欠くことができなかったものである。今でも貝料理には古代への郷愁のよ

うなものかひそんでいる。潮騒の音を遠く聞きながら貝特有の料理

に舌づつみを打つのも、麻のつれづれを慰めてくれるものである。

桑名から四日市へ来て見ると、ここでは、時雨蛤が有名だ。広重の東海道四日市三重川に、「旅人は

時雨に逢いて笠をぬぎ」(時雨を、雨と時雨蛤にかけたものである) などという歌をよんでいるく

らい時雨蛤とは、蛤をむき身にして湯で煮たものだが、煮上がるまえに、生姜を入れて佃煮ふうの風味を出す、それがなかなかむつかしいのだ。

むつかしいところがないと名物もならないだろうが、またそれがために一カ月ぐらいは全然変質しないという、ここへ来て広重の絵や句を思い出しながら味つて見

るのも、意味深いものである。

貝拾い 帰れ帰れと潮が寄せ 万吉

貝拾い 浜辺育ちでない 子

貝拾い いちいち名前きいて 幽谷

入れ 桑名から四日市、伊勢、鳥羽、志摩半島であわびがとれる、あわ

びは巻貝の一種だ、貝殻が皿のように浅くなっている。あわびには男貝と女貝がある、男貝は青肌で

肉がしまっている、青貝といわれ、女貝は赤肌で柔かくピツ貝と呼ばれている、男貝は木貝によく

女貝は、煮もの、焼もの、蒸しものなどによいとされている、粕漬

は、新しいあわびの肉を甘味の

ある上等の酒粕につけたもの、又「ウニ」をつけたウニ漬もある。

共に風味ある鳥羽の名物として東京方面に売り出されている、又あわびは、のしあわびに加工されてめでたい婚礼の結納品などに使用

される半面、磯のあわびの片思いと、いって恋の思いが、とどかぬ時に使われるのも面白い。

花押しして一人病んでる片思い 貴州

片思い星のまたたきさえ恋 葎乃

昔の人は貝殻を鍋に使つたり、杓子に作つたり、皿にしたり、料理道具として実用的に使途を考

えている、今でも貝料理に貝殻をつけたままで食膳に持たされるものが多いが、これは現代の食文化以前への郷愁が、そうさせるの

かもしれない、そこに潮騒の音の心のどこかにひびいてくるのである。

貝拾いでつかい船に手をや すめ 千代春

貝を料理するには、貝の構造について知っておかねばならぬことがある、貝類は普通二枚貝(蛤、

アサリ、カキ、シジミ)などと巻貝(サザエ、あわび、タニシ)などに大別することが出来る。更に海水、淡水、(シジミ、タニシ)など、棲息地別にも分類出来るが、その中でも入手しやすい貝類の話

にとどめておく。季節も春になると赤貝のうまいときである、九州の博多湾では、赤貝がよくとれるが、八寸までは、東京大阪へ送られる。春の、花見料理には赤貝が春の風情をそえるのである、赤貝は生食の方が香りもあり歯切れもよい、蛤やアサリは熱を通してから食べるが、赤貝カキなどはむきたてを生食にする

と特にうまい。

貝拾い 大きな籠を持って行く 陽子

貝料理についてはまだ白々とあります、長くなるので、略します。昨年の夏から、秋冬春と歳時記も巡りましたので、こゝらで終らせて頂きます、長い間の御愛読を謝します。(終)

百酔 悪酔に

★肝臓を強くする

六六六錠

一〇五五錠

ウロコ印

底田薬品



「一語一会」

戸田古方

入門講座

研究題「折鶴」

近頃の話題の一つ「ルパン島
の生き残り日本兵救出」は国会で
そのことが論議されたり、現地では、
やっきになって日比当島が努力して
います。日本人としてこの戦争犠牲者
たちが一日も早く無事に救出される
ことを祈らずにはおられません。

何でもその一人は戦争中スバイ
教育を受けた将校とかで、素直にも
のが受け入れられないらしく、百年
戦争はまだ続いていると信じている
らしいのです。なにを馬鹿なこと
って、ひょっとしたらこの人たちが
正しくて、私たちが間違っているの
かもしれない。何しろ目標はかわ
つても冷戦はこの十幾年間休む間も
なくつづいているのですから。
しかし、何としてもこの人たちが
と私たちとは仏教でいう「きょう
がい(境界)」がちがっているの
です。それにつけても思われるのは観

賢聖人の歎異抄の

善人なをもて往生すいわんや悪
人をや

の有名な一句です。悪人正機の太
思想ですが真宗を誤解されるボー
ントにもなっています。
悪人はなをもて往生すいわんや
善人をや

ならわかるのですが、要するに
「善、悪」ということばの考え方
からきている問題なのです。そこ
で「善」「悪」をおきかえて

「落伍しない者も電車にのって
いというのに落伍者がどうして乗
車させてもらえぬということがあ
ろうか」

としてみまますとややわかつてきま
す。これを「悪人なをもて往生す
いわんや善人をや」にあてはめて
みますと

「落伍したものでも電車にのれる
のに落伍しないものが乗車させて
もらえぬということがあらうか」
とまことにへんなことになってし

まいます。「落伍者」こそこの場
台お正客でなければなりません。
聖人がつかわれた「善」と「悪」
をせめて「強者」「弱者」とせら
れたら、もう少しわかりよくなった
のではないかとも思うのですが、
そういうあいまいなことばでこま
かせなかったところに観賢聖人の
面目があるのです。みがけばみが
くほど醜さがみえてきて、それを
ごまかしきれなかったので迷いに
自らを極悪悪人とみとめられ、そ
こからこの「善」と「悪」のこと
がえらび出されたのです。だから
この「善」と「悪」は光かがやい
ているのです。聖人のいわれる
「善人」とは人間以上の知恵と才
覚や根気を見えたといわれる天人
や仙人とされているので、丁度ル
パン島の世界にいるように、この「善」
と「悪」こそはぎりぎりの動かせ
ない宗教的表現をしているので
す。

フランスの文豪、モーパッサン
でしたか、フローベルでしたか
が、その個所に最も適したことは
一つよりないといったことが
とを大ぶ前に路郎先生からうかが
ったことがあります。文学する
ものにはことに大切なまじめだ
と思えます。

句集「私達」にのこされている
私の句に
落第の醍醐味なんか知るまいが
というのがありますが、これは
「落第」だからおもしろいので

「失敗」とおきかえて
失敗の醍醐味なんか知るまいが
では大したことありません。に
ごりを知らぬ純真な時代に「落
第」は生命にかかわるショックで
でもあり得るのです。それだけに
又人生にプラスするとなるとその
分量も決して小さいものではない
のです。

さて「折鶴」ですが、最近これ
にいろいろの願い事が秘められて
いるようです。

折鶴を何のまじないだとコ
ップ酒 周甫

何のセンチな願いごとぞとすると
く切ったコップ酒。これは生きて
います。

折鶴で待てば無邪気と笑わ
れる すみ江

前の句よりずっとやわらかく斗病
の女性らしく無邪気とうけとめて
いられます。

聖(清)願を托し折鶴届け
られ 隆文

この聖(清)願は悲願とこなけれ
ば、

千羽鶴への悲願二十でうっ
ちゃられ 歌子

何をうつつちゃられたのか、残酷な
想像がもしませんが、

折鶴の無心に揺れる春の風
(窓) 敏子

飛べそうもない折鶴へ春の
風 一鶴

後者の「風」は動かせないとこ
ろ、前者は「揺れる」とあります

本
福壽丸
心斎橋筋大丸前
電話 三三四四番

から「春の恋」ときまるでしよ
う。

ローティンスタールに上(捧)
げる鶴を折り 敏子
漢字を無理につかうことはありま
せん「上(捧)げる」は「あけ
る」でよいではないですか。

葉包紙で折鶴つくる回復期
 どんたく

「葉包紙」をどう読むか、これは
耳への音より眼で見ることばでし
よう。下五の「回復期」とともに
漢字が句体をつくっています。

折り方を教えてもらて千羽
鶴 岳詩

風邪の子へ折るとて鶴をき
きにくる 敏子

お座敷の舞子折鶴手の早さ
 道代

折り方を問題にした三句ですが、
「折り方を教えてもらて」とた
みかけ、いいつくしているよう
ですが、それがあまり目障りにな
りません。第二句は「鶴をきき

く

る」と省略をされています。第三句の「手の早さ」はどうですかね。♪千羽鶴雛妓の指で折り上り♪とでもしたら、「お座敷」の雰囲気も出ますし、「手の早さ」といわなくとも、

折鶴の名残の棺に納めたり
句念坊

この句の二つの「の」は研究問題になると思われます。

折鶴を名残の棺に納めたり
折鶴の名残を棺に納めたり
折鶴の名残の棺に納めたり

(原句)

原句は超文法的な余韻を感じられはします。「の」を「を」にかえた前二句はそれぞれに切断られてしまします、第一句はこの棺が出たらもうおしまいだし、第二句は死者の移り香も残る最後の折鶴を入れるところを強調しています、第三句はどちらにもふくめながら、やや第一句の感じに近いように思われます。さあどうでしょう。

さて最後に残ったものの中から二三句、よいきめ手になった句を臨終へ折鶴白く目にしみる
参無子

この「白く」はたしかに目にしみるほどの白さです。

ひやかしてもろうて嬉し千羽鶴
たつよ

全体に女性のやわらかさがしみています、「ひやかし」も調子をこわしていません。

妻からの折鶴こんなにもたまり
堅持

妻なればこそとどけてくれる折鶴ですもの、

折鶴のような妓なりし古稀という
静観堂

やはり、お歳と申しては失礼でしょうか、若い人ではこんな句をつくっても、これだけの「はり」は出てこないでしょう。

四月十日は皇太子さまの御成婚、それに今日は清宮さまの御婚約御発表と、お祝の心をこめた一
句

ご成婚祝う夫婦の鶴を折る
八九寸

夫婦は「みようと」とよんでほしいところ、あるいは現代風に「ふうふ」の方が皇太子さまや清宮さまらしいのかもしれない、こっちの年がわかりそうですね。

今日は私どもの、その間一度も喧嘩口論もせずにごして来た第二十九回目の成婚記念日、はい、さようなら。
一三・一九一

研究題 「嘘」

切 五月十五日

発表 七月号予定

投句先 豊中市本町三丁目

二〇一 戸田 古方

郷土の先哲を

しので

佐内隆文

昔藤原氏が世に時めいて、詩歌管絃の遊に耽りその一門が栄華を誇って、一般人をちりあくたの如

くに見ていた時に「山がつと人はいえどもほととぎすまず初声はわれのみぞ聞く。」と詠んだ歌人がありましたが、今の世に於ても私達山村生活者はこの誇りをもち続けています。世界の全民族中日本人ほど自然美を愛し、自然を愛しむ民族は他にないとのこととす。家庭庭園の造築から一切の器具、服飾、から古来武士の用いた刀剣、甲冑などに到るまで風流な花鳥を以て、飾られているのに外国人は感心するそうです。私達田園人は常に花をめで、鳥の声を楽しみ、明月を眺め折々に御馳走をし、酒を酌交して自然美を楽しんでます。そして短詩文芸の心得があれば短歌が生れ、川柳或は俳句が出来ます。野壺の句も私達田園詩人には句作の材料となりま

とです。月皎々の夜、琴を野外に持ち出して弾じられたという琴弾岩は今も尚名所の一つとして残り、現今に於ても仲秋の名月の夜はそこで、琴会を開き古人の遺徳を讃えています。

平安時代の末期(西歴一一五〇年頃)当地阿部山脈の高峯に居を構え、自然を友としほととぎすの声を聞きながら日月星辰の運行を研究し、天体並に氣象観測をしていた当時の陰陽、易学の大家阿部清明公があり、後に京に出て名声一世に風靡したそうでありま

す。現在もなお遺跡として「清明屋敷」なるものが残っています。次に古今絶世の美人と伝えられ、又鎌倉時代の有名な歌人藤原定家が選んだ小倉百人一首の中に加えられている女流歌人、小野小町女史の終焉の地として語り伝えられている処があります。清流高梁川のはとど、桜の名所「倉敷酒津」の近くにある黒田部落こそ、女史が老後自然美を味わい、花鳥風月を詠い続けて逝かれた緑りの地でもあります。今はただ昔の面影をしのぶお墓が一基あるのみです。私達郷土の先哲は斯くの如く自然美を愛する為松籟の聞かれる地、草深い山里を魂の憩いの場所として生活し幾多の詩歌を作りました。

二十世紀の現代に於ては田園に暮す私達の前にラジオあり、テレビあり、家庭も都会なみに電化されています。公民館の文化施設あり、何ら都会生活を羨む必要はな

いと思います。キネマも巡回映画で毎月二・三回楽しんでます。日本人古来の伝統である自然美の愛好。これこそ田園生活によって味えるのであります。日光東照宮を見物してその建築彫刻の美に驚くよりも、その輪郭、その色彩が、いかにその美しい背景と調和を保っているかを驚歎するのであります。生花、箱庭、盆栽、に於ては自然形を保存し、しかも一層これを美化し、日本の絵画が花鳥山水に勝れ、文学は自然美を歌うことがその生命で、古代の和歌俳句まで概ね自然を歌った欣賞の声であります。私達は祖先に学び、先哲の後に続き、額に汗して日々働く者であっても、短詩文芸「川柳、俳句、短歌」に親しむことによって、農村漁村にありながら「心の文化生活」を営むことが出来ると固く信じて疑いません。

ヒゲソリ後に

アストリンゼンは世界的常識!

- 1 生々した男性美をつくる
- 2 爽快でヒゲソリがたのしい
- 3 新強力殺菌剤G11配合で一層強力!

明色アストリンゼン

桃谷順天館

一路集



急所

中島生々庵選

父の急所はずれの熱いこと 秀男
 急所にはふれぬ意見で肩がこり 花車
 手土産を持って急所へ触れておき 魅光
 立脱みのこが急所だメモしと 虹要
 お師匠に気に入る急所やはり金 夜潮
 双方の急所があつて争えず 無閑
 お豆腐のように急所のない男 保美
 先生の急所へあだ名うまく触れ 一恒
 握られた急所がボスの飯になり 井蛙
 奥さんが急所をにぎって仲がし 与根一
 妙案も急所になってまた崩れ 藤波
 常連の急所をマダムよく覚え 雄々
 酔うても急所はちゃんと心得る 一休
 急所を突かれ答弁明日廻し 定月

泣き所ちゃんと押えていて交渉 岳詩
 上役は急所々々を締めかかり 句念坊
 お役所の急所を知らず退官し 敬太
 電話口急所つかれた声になり 兼治郎
 急所を突く発言が葬られ 宗太郎
 しろうとに鰻は急所掴ませず 葉光
 王手王手オッサン 思案する 庸佑
 姑の急所握って嫁の無事 宵明
 急所だけ符牒を入れた飛行便 圭井堂
 急所握られてからの仕事せりにくし 昌男
 雑談が急所をついてあわてさせ 進之助
 平身低頭して急所は突いて来る 一鶴
 急所には急所をもって制しとき 尉介
 野党席急所を握って立ち上り 鳴枕
 敷蛇と知って急所へは触れず 蜻蛉
 自言などないが急所はにぎとり 鈍愚坊
 急所を外れたらしいとほっとさせ 三舟
 屋所の牛あわれ急所が待つ許り 繁太郎
 急所だけ押えておいてとほけてい たけお
 共に泣く母も急所はそとよけ 悦子
 問題の急所に触れてから無口 鶴汀
 ベッドからダレス採配する急所 菜春
 先輩は急所へ朱筆ままで貸し 南牛史
 娘の日記謎の急所は母が解き 光郎
 番号をつけて急所が多過ぎる 幽谷
 相談も急所声一段と低くなり 秀三
 急所には触れない妻が怖くなり 忠三
 鰻屋が握れば鰻素直なり 実男
 一応はあやまり急所はまけない気 夢路
 人情にもろい急所へつけこまれ 喜代
 古師急所を聞いて易を立て 珍ちく
 商魂は急所迷がさぬ話し振り 豊年
 意地張りへあんな急所を押してゐる 淀月

急所にはふれない間に三通話 陽子
 云いなやと紙に包んで握らされ 狂二
 先廻りして急所だけ押さえ 保夫
 ノートした急所が巧く試験に出 隆文
 ワンマンの社長にもある泣きどころ どんたく
 急所だけメモして秀才すましてい 白帆
 悪運のつよき急所をちよつとそれ 圭木
 笑い乍ら死ぬる急所があると言う 三林坊
 急所だったか子供黙り込み むじな
 急所まで筆を運んで以下次牙 暁明
 握られた急所をデマと笑いこけ 東二
 待たなしてすよと急所上石の音 春雄
 急所とも知らずうかつな賞め言葉 代仕男
 動靜の急所は避けてストをやり 敏明
 生活の落目に急所まで突かれ 旭峯
 奥さんに内緒ですかと秘書笑い 蘭
 探偵社人の急所を洗い上げ 生薑
 岸首相にんまり急所で立ち上り 敏子
 溜息のひとつ急所が呑み込めず 雪峯
 満堂に固唾のませて急所衝き 十九平
 居殺場の急所目がける眼が恐い 雄声
 言うだけを言わせておいてく急所 旅風
 急所突く憎まれ役はゆずり合ひ 古心
 五客
 急所を知りおうてからのウマがある 恵二朗
 急所へ桂馬打ってからお茶をほめ 参無子
 こしやくにも歩が王将の急所つく 義夫
 急所から外れた記事がほっとさせ 鬼美
 急所とは人間こんなにもろいもの 愛鳩
 人
 無口ながズバリ急所をついてのけ 悦子
 地
 美しい嘘が急所で言いよどみ 美音子

女同士

福田妄夢選

お気軽にみせて急所は折目つけ 八九寸
 天
 女同士あつさりお腹すく話 夢路
 酔っぱらって見ても所詮は女同士 七星
 寝そべった女同士へ出前くる 光郎
 女同士一日ゆっくり寝る話 幽谷
 女同士の話露地をふさいどり 忠三
 混浴へ女同士の波が来る 菜春
 仕舞風呂女同士のすすぎもの 南牛史
 旅の宿女同士の湯は長く 鶴汀
 女同士デザートで何も買わず去に たけお
 女同士あぐら組んでる娘もまじり 鳴枕
 嫉妬もふくめて女けなし合ひ 一鶴
 ビヤホール女同士の大ジョッキ どんたく
 よろめきの共鳴をする女同士 宵明
 母ものへ女同士で泣きにゆき 兎康
 女同士どうにもならぬ羽目になり 蜻蛉
 女同士の客へ上手にまげさせられ 実男
 どやどやと乗り女同士とくしゃべり 与根一
 女同士男を悪魔にしてしまひ 雄々
 笑うて女同士は油断せず 岳詩
 女同士相手の暮し探り合ひ 音子
 女同士中の一人は泣き上戸 雄声
 二次会は女同士のハイボール 昌男
 女同士の喧嘩ただならぬ合ひ 三舟
 妻も娘も婦人候補へ票を入れ 十九平
 ニュールツ冷たく見返す女同士 むじな
 別室で女同士の話すこと 暁明

女同士だからとうっかり気を許し 雪峰
 女同士静かにポード漕いで居り 蘭
 クラス会女同士にあるブラン 季賛
 映画館の朝に出合った女同士 太路
 女同士男ざらいのように言い 俊見
 赤電話女同士という長さ 鬼美
 女同士夫に相談すると決め 圭木
 鼻かんで女同士のぐち続き 越山
 愛称で女同士の日が続き 白帆
 あなどって女同士にへこまされ 笑太
 お邪魔でしよう女同士の話し好き 万女
 恋をして女同士に溝が出来 狂二
 女同士しゃべった事で気が晴らし 智津子
 盛装の女同士の目がからみ 陽子
 北浜でへそくり同士うまが合い 淀月
 世話好きが女同士へ口を出し 豊年
 熱海行女同士はさぐりあい 珍ちく
 にぎやかに女の相合傘がゆく 愛鳩
 おくやみに女同士は泣くばかり 好子
 流行へ女同士の気が疲かれ 雄々
 女同士嬌声あげてバスを止め 敏子
 割勘へ女同士に要る小銭 圭井堂
 メートル法女同士に批判され 兼治郎
 女同士手振り身振りで熱が入り 句念坊
 女同士衣裳鏡へになった会 藤波
 二合瓶女同士で持てあまし 甦光
 よく喋る女同士で 隅が空き 宗太郎
 女同士明日はキモノにする電話 八九寸
 女同士案外無茶な話もし 無閑
 一枚の座布団へ女譲り合い 夜潮
 女同士それぞれ提げることがあり 保美
 女同士になれば気楽なことも言い 恒雄
 素うどんで昼を済した女同士 花車

レジスタンス女同士のハイボール 葉光
 佳
 女同士ならと父も承知させ 庸佑
 女同士些細な事が解け合わず 旭峯
 女同士に押売手もなく退散し 井蛙
 人
 女同士互に隠すアルバイト 定月
 女同士イミテーションと見抜きあい 惠二朗
 天
 女同士頼りにならず泣いて呉れ 葉春
 軸
 さり気ない挨拶素早く柄と柄

声

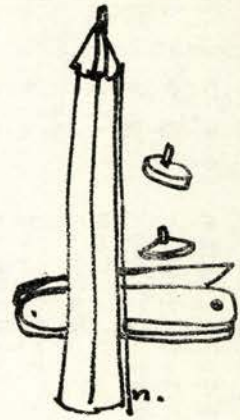
那谷光郎選

声変りしてから親と間違われ 保美
 地曳網迫りかけ声急調子 八九寸
 九官鳥だったと空葉知らなんだ 虹要
 旅帰り夫の声によみがえり 夜潮
 降り出した雨に二階からの声 甦光
 物売りの声が季節を運んで来 与根一
 打ちあける声ききとれず波の音 雄々
 大声で牛も叱らぬ婿養子 藤波
 大声を揚げて地声といじわるさ 句念坊
 聞き憶え有る声やがと又のぞき 岳詩
 暗闇を行けば小声で寄って来る 定月
 もう相手判った声になる電話 兼治郎
 参観日パパを困らす声でなし 宗太郎
 父親の声腕白が座にかえり 隆夫
 機嫌よく猫で声にくすぐられ 葉光

声変えた電話いつしかぼれて居り 庸佑
 プロバリン量あやまっただけ 進之助
 大穴に数万観衆の声が沸き 素百々
 その上を頼る夫の声に待ち 笑太
 交番に声かけて行く千鳥足 白帆
 声変りする子へ意見まで変り 越山
 心では声に出せぬがもどかし 圭木
 お隣さんの声九州のからしい 太路
 聞きとれぬ祝詞もあつて式が済み 俊見
 金策もどうやららしい笑い声 春雄
 低音のブームが納得出来ぬ母 むじな
 きつい声出したら妻が口づくみ 愛鳩
 甘たれた声が財布を軽うする 東二
 発表会声小さいと母の愚痴 季賛
 声のせぬ方にうるさいのが控え 代仕男
 音声をいためた笹の佐渡おけさ 三林坊
 美しい声が出来ている 懐越し 生薑
 そっくりな声に電話はだまされる 雪峯
 名声が墜ちてもやはり鯛の味 旭峯
 其声に入れた一票裏切られ 白桐
 疳高い声まで似て来た認知の子 十九平
 声出して言えぬ所は文で書く 雄声
 不機嫌な日なき妻呼ぶ声にさえ 古心
 又よその子供泣かしたらしい声 蘭
 臍声を左右に分けたホームラン 昌男
 声ハタとやんだドアへ立ちすくみ すみ江
 二才郎旦那ともめる声がもれ 一鶴
 ヨイトマケ声が揃った紺緋り 鳴忱
 声変り映画好みも変って来 晃康
 大声でどなっておいて気がとがめ たけを
 怒り声背中に受けて花を届け 七星
 同窓会大人になった声もあり 南牛史
 声出して読んで勉強しています 幽谷

吸り泣く声にマイクの無表情 葉春
 「しぶいわ」と甘い声から燗てられ 忠三
 よく透る声が近づく金魚売 秀三
 クラス会先生叱った声で世辞 実男
 声かけて見たけどさっぱり言いきれ 珍ちく
 逢えぬ日は電話で声を聞いておき 陽子
 社に居ても新妻の声耳につき 狂二
 養子ですさかいと声まで低くなる 保夫
 寒行の声吹雪に遠くなり 三舟
 只今の声にお茶目な子がかくれ 智津子
 太いのは地声と弱味につけ込まれ 井蛙
 佳
 深夜ふと父の不況の話し 鶴汀
 奥様の声に女中が舌を焼き 参無子
 産声を上げて苦勞の第一歩 恒雄
 よい声を持ったばかりに家継がず 万女
 隣室の話へ編棒止まってた 曉明
 妻の泣く声を尻目に来たものの 敏明
 寒行の声はスラムの奥に滲み 美音子
 社長のパカヤロ山のことまの面白さ 虹要
 初出社課長と思う声を聞き 無閑
 せり市の声から漁港の朝が来る 恵二朗
 泣き声が気になる君もヒロイズム 葉光
 大声に又かと近所起きて来ず 圭井堂
 声あらば泣きわめくらんびの魚 どんたく
 人
 声ぐらいかけると窓から呼びとめる 一休
 地
 友うれし声と一緒に上り込み 豊年
 天
 額縁の声なき声にはげまされ 惠二朗
 軸
 忘れてた過去似た声に甦り

柳界展望



句会

▼本社五月句会は七日(木)午後六時から道頓堀文楽座三階洋間で開催される。ゴールデン・ウィーク明けの行楽疲れにめげず振って参会されたい。▼杏林川柳会(大阪市)句会は四月二十一日午後七時半から南区三休橋南詰中島小児科診療院楼上で開催。▼コクヨ川柳会(大阪市)は四月十七日午後五時半から黒田国光堂で開催。▼川維西官支部発足記念川柳大会は四月十九日午後一時から西宮労働会館で開催。▼南海電鉄川柳句会(大阪市)は四月二十三日午後六時から難波の親和クラブで開催。▼大阪通信病院川柳句会は四月二十五日午後二時から五階会議室で開催。以上路郎主幹出席。▼川維篠山支部川柳大会は四月十日午前十一時から篠山町立町孔雀会館で開催。▼乃女史出席。▼皇太子御成婚記念川柳大会は四月十九日(日)正午から倉吉市役所会議室で開

催。主催は倉吉川柳会。▼豊中川柳会主催、御成婚奉祝豊中市市民川柳大会は四月十二日(日)一時から豊中市中央公民館で開催。▼田中辰二句碑建設記念川柳大会は四月五日正午から八代市本町三丁目正教寺で開催。▼竹原川柳会(竹原市)第四回御賢詞大祭奉賛川柳大会は三月二十一日商工会議所で開催。▼川柳岡山支部句会は四月十八日赤岡山支部で開催。▼川維下関支部(下関市)句会は四月十二日下関駅会議室で開催。▼岡山電報局ゆめ句会は四月六日江国幽谷居で開催。▼岡田鹿の子氏医博取得祝賀川柳句会は三月二十九日(日)午後一時から堺市立図書館階上で開催され盛会だった。▼長野県護国神社大祭奉納文芸作品の川柳の部は兼題「テレビ」石曾根民郎選三句以内。投句は葉書に住所氏名明記の上四月三十日まで松本市中原町長野護国神社崇敬者会文芸部宛。▼岸和田川柳会


(岸和田市)五月句会は十一日(月)午後六時から宮本町会館で開催。兼題「緑・女子寮・裏話」。▼大島瀨明句碑除幕祝賀川柳大会は五月十日正午から八代市古麓町春光寺で開催。兼題希望・夜明け・兜・壁一重・句碑、切は四月三十日、投句料不要、宛先熊本郵便局私書函第四十五号、川柳噴煙吟社。▼新潟県下川柳大会は六月十四日(日)午前九時半から新津市日宝町新津市公会堂で開催。選者三太郎・波而・信子・すみ丸・夕帆・風柳の各氏。投句は各選者宛の雑詠二句を明記、投句料百円同封の上、六月五日までに新潟県新津局区内柳都川柳社宛に送付のこと。

消息

▼路郎主幹は三月二十五日(水)午後五時半から高麗橋三越で開催された牧村史陽著「大阪城物語」出版記念会に出席された。▼路郎主幹は、故食満南北翁の三回忌に当り企画された南北記念亭並に句碑建設の発起人に加盟された。▼浜夢助氏(仙台市)は古稀祝賀事業の一翼として日本三大稻荷の一つ宮城県岩沼町竹駒神社へ川柳額を奉納されることになった。この奉納額に路郎主幹も句を寄せられた。▼故食満南北翁の句碑の句の選定委員会が四月十五日午後二時から千日前大劇東の「味園」で開催され、平井正一郎、岸本木府小川百雷、堀口塊人、岡田鹿の子麻生路郎各委員持ち寄りの色紙短冊から「昔堺に男ありけり夏まつり」の句が選定された。▼文芸春秋五月号グラビアに岡山県の川柳の町久米南町が紹介された。久米南町弓削駅前路郎主幹の不朽の名句「俺に似よ俺に似るなと子をおもひ」の句碑のあることは有名だが、この句は文芸春秋創刊当時日本三大名句の一つとして取上げられたことは、知る人も多くあるまい。四国に川柳村のある例に

村好郎氏(大阪府)は四月五日羽曳野病院どんぐり会復活第一回句会に出席、指導された。▼前田伍健氏(松山市)は相変らずNHK・民間放送のテレビやら放送やらに毎週追われて忙しい由。殊にテレビでは例の赤泥土のようなドーランを塗り、あはらしいやらカユいやらで閉口して居られると。▼米沢晴明氏(大洲市)は三月二十日大洲市三善中学校の卒業式で校長自作の川柳処世訓を三十六人の新卒業生の一人一人に送り多大の感銘を与えられた。▼北川春葉氏(大阪市)は学会のため東京、六日には内科の会場で鳥ヶ辻通信病院の若林草石氏と会われた由。「ビール機嫌銀座美人を見て歩き」の句信を寄せられた。▼大西迷窓氏(高知市)は四月六日義父の忌日に総社市へおもむかれた由。▼土井文蝶氏(大阪市)の令嬢が心臓弁膜症で阪大医学部付属病院に入院された。▼野村味平氏(加賀市)は四月十二日上京された。日曜のこととしてラッシュのない東京は静かで良い気分とのこと、それでも盛り場ではせわしく歩くのも雰囲気の良いだと「セカセカと有楽町を通り抜け」の句信を寄せられた。十九日には伊藤茶仏氏(小松市)等と福井県の吉崎霊場への吟行に同行された。

酒



清

灘・魚崎

大塚合名会社醸

▼藤原重信氏(出雲市)が一月二十六日結婚され、祝賀句会が二月十三日同氏宅で開催、尼緑之助氏を始め賑やかに新婚の御二人の前途を祝福された。▼勝谷山川児氏(松江市)は島根新聞の柳壇選者を担当された発展を祈る。▼米沢晴明氏(大洲市)は四月八日前後二十一年動続の三善中学校長から大洲市立久米小学校長に転動された。▼岸南柳氏(大坂市)は理容界景仰之碑を、香里園成田不動に建設され、五月一日に除幕式を行う、なお句碑の裏に同氏の句「人生に因縁と云う良い言葉」がきざまれる由。▼船木夢考氏(敦賀市)は一昨年以来宿痾の喘息で病床に就いていられる由。故安川久留美氏の三周忌も二月二十日に済みま

したと。▼直原七面山氏(岡山県)は二十日岡山東警察署の川柳句会に出席、一現代川柳及び川柳の作り方」と題して講演をされた。▼「せんば川柳社」は一昨年十一月番傘川柳社に合同したが、三月二、三日の人を残して番傘同人を退き社を復元された由。

柳誌・句集

▼「川柳三升」誌は平易の中に明るく愉しい川柳を指して五月三十日創刊号が発行される。申込は切手四十円を同封の上山梨県西八代都市川大門町小林睦水方川柳三升会事務局。▼川柳句集「微笑園」第一集が、西宮市甲子園口五丁目一七七ふあうすと川柳編集室から発行された。定価百円。

▼浜田久米雄氏(岡山県)の令嬢英子さんは良縁を得られ、四月五日奥田忠義氏と華燭の典を挙げられた。お祝い申し上げます。

転居

▼黒川紫香氏(豊中市)は京阪神急行電鉄株式会社資材部倉庫課長に、村上ゆづる氏(豊中市)は企画課長にそれぞれ栄進された。

電話開通

▼岡部三十郎氏は豊中市大字庄本三七九へ転居された。

正誤

▼水谷竹莊氏(大坂市)宅に電話が開通した。天王寺局第四二二番。

▼四月号十頁上段二十一行目「睡眠薬は睡眠薬の誤りにつき訂正。」

▼四月号三十八頁三段十五行目

築山町とあるは篠山町の誤りにつき訂正。(蕪)

社の黒板

★川柳雑誌社西宮支部が西宮市津門西口町五〇(若本方)に新設されその記念句会が四月十九日に西宮市労働会館で催された。支部長若本多久志氏。

★常任理事會

月二十八日(土)午後七時から南区三休橋南詰中島小児科診療院楼上で開催。路郎、文蝶、多久志、古方、栗、好郎、没食子、いわのの諸氏出席。議案は川柳まつりの件、新川柳鑑賞刊行の件、不朽洞會員弔慰金の件、支部活動の件、等。(いわを)

婦人友の

役員改選のお知らせ

会から

会長 麻生霞乃
理事長 山川阿茶
理事 藤村 梨花、藤村 メ女、池上知恵美、小西富士子、中島 小石、内藤さき子、西村 梨里、永松あやめ、西出 一栄、太田 良子、杉原 吟女、武部 若菜、高橋 操子、八木 徳子、(ABC順)

▼従来、往復ハガキで金泥集の課題をお知らせして居りましたが、會員が殖えるにしがたが事務が繁雑になりまますので、今後は課題を金泥集の末尾に載せていただくことにしました。

但し投句のためのハガキはかためて送ります。

魚澄惣五郎氏



(川柳雑誌社・不朽洞会賛助、文学博士、関西大学大学院部長)は三月二十三日午前二時二十分、セキツイガンのため

大阪徴研付属病院で逝去された。謹んで悼む。年六十九。告別式は三十一日午後一時から豊中市の萩

の寺で執行された。自宅は同市千里園二の二八。氏は神戸市の生れで、大正三年東大文学部国史学科を卒業、日本学術会議委員、大阪府文化財専門委員、近畿郷土史の權威で二十八年には「なにわ賞」を受賞された。昭和三十一年度大阪市川柳大会での講演は多数の川柳家に感銘を与えられた。

なお魚澄博士はことし古稀を迎えられたので坂本東大教授ら同氏の学友が中心となって「魚澄先生古稀記念会」を近く催すことになっていただけに哀惜は深い。

品川陣居氏



本誌寄稿家として馴染の深い品川陣居氏(東洋経済新報社出版局員)は三月七日午後〇時半、東京都杉並区阿佐谷の河北病院で肺臓ガンのため薬石効無く幽明境を異にされ翌八日にだびに付し、遺骨は東京都豊島区雑司ヶ谷五丁目鬼子母神境内、真乗院にひとまず安置された由。戒名は秀岳院陣居法句居士、謹悼。

氏は明治二十八年五月三十日東京都日本橋区北島町に生れ本名中野竹雄、別号品川陣居、糸井武雄

竹魚亭主人。曾て北品川町二丁目四三にいたので品川陣居の別号を用いられたのである。大正七年頃には「社と家の唯一本の道があり」がある。昨年の本誌五月号には西島〇丸氏の計を惜しんで「〇丸にかなする漫画」を寄せられ同年九月号には「老境と若いひと」を寄せられた。これが本誌への絶筆となった。氏の麗筆が本誌に見られなくなることは日本柳壇のために惜しまれてならない。

川柳に手を染め高須啞三味氏と親交があった。故山川花恋坊と関東



▼用紙は原稿用紙▼文字は正
確▼締切毎月十五日▼投稿先
本社宛

皇太子さまご成婚を祝つ

本社 四月旬会 (大阪市)

4月16日 午後6時

会場——文楽座別館四階

春宵のひとときを、前月のように三味の音を期待したが、今月はそれが聞えなかった。

「感じのいい会場ですね」とは久しぶりで出席された篠山支部長小西無鬼氏のソングだ。票をかせぐ候補者の声が車で走る以外は静かな会場で、その第一幕は古方氏の句評からはじまる。(この句評は「知足ということ」と題されて次号本誌へ発表の予定。)新屋平沢保美氏が天位3を一筆に記録され、しかもその一つは不朽洞賞杯という大ホーマーであった。川雑川柳まつりも近づき柳趣いよいよあがる。閉会九時三十分。(F)

出席者 一路郎・水堂・与呂志・圭井堂
・一三天・薫風子・潮花・無鬼・いさむ
・紫杏・文蝶・白柳・満秋・暎子・多久志・一栄・清子・水客・一瓢・白溪子・淡舟・昌男・武助・狂二・好郎・白水・舟遊・柳宏子・一十・阿茶・悟郎・梅志・鶴汀・水断・亜鈍・万榮・古方・光

輪・すゝむ・柳志・半歩・牧人・いわを
・六童子・井平・保美・生々庵・文秋・旅風・葉乙女・静馬・博也・メ女・操子
・浩青・よし子・梨花・勝一・直人・海里・唐佑・宏子・慶乃

兼題「祝」 中島生々庵選

御祝へ一家総出で泊り込み 蘭
お祝を呉れそうなるを敷えて見 陽子
お祝を送ると手紙だけ届き 幽谷
總裁の祝電酒が追加され 宗太郎
渡り初めの知事と並んだ共白髪 八九寸
本復の祝が杖で礼に来る 兼治郎
妬まれたあげく祝にまた取られ 文秋
したしきは祝の品を聞いてくれ 宏子
お祝に来て就職を頼まれる いわを
手ぶらでは行けぬ祝に招かれる 文秋
お祝いへ鯛はうかうかしておれず 阿茶
お祝の詞が長いお爛番 六童子
祝とはただ飲むことと心得る 満秋
内祝妻も嬉しい墨をすり 昌男
ささやかな増資社員へ内祝 武助
軽蔑の眼で新築の宴に着き 圭井堂
祝盃へ苦言を呈すのが一人 万榮
以下同文という祝電は束にされ 柳志
入学の祝いにキャッチボールする 水客
藤椅子へ米寿小さく写される 保美
車座へ焚火がはねる祝いの酒 柳志
その中の一人祝盃高く上げ 武助
お祝を述べてる方も涙ぐみ 好郎
祝酒もう本人は寝てしまひ 柳志
はげちよろな茶台もよし内祝 梅志
合成酒一本ずつの祝酒 阿茶
お祝いの言葉半分ぐらい嘘 多久志

前祝いやけ気味もあり派手になり 旅風
祝酒無口な主人を踊らせる よし子
目出度い日無口な父に笑わされ 牧人
まん幕を分けてゆたんの荷がどき 六童子
お祝の額で井戸端もめており 直人
精一ばい祝う音痴が胸に沁む 旅風
御祝と書いてこの恋あきらめる 保美

兼題「反省」 川村好郎選

反省と負けん気心の奥でもめ 兼治郎
ゼンマイのように反省またゆるみ 周甫
墮ろしたらしまいと反省すから見せず 一鶴
反省どころかますますの妻のヒス 陽子
資本家の反省ストを長びかせ 宗太郎
反省をしろと見おろす祖父の額 梅里
反省へ結局金がままならず 博也
三寒四温の如く反省くりかえし どんたく
ますしさに反省のいるくらしむき 宏子
反省へ更けて鉄窓乳が張り 六童子
反省を求め優越感じと 与呂志
言いつ分のある反省を聞いてやり 文蝶
反省をしたか電話がまたかかき 紫香
月曜のあくびは妻にすまぬこと 多久志
かえりみて悔いなく晩学まだ続き 水客
反省をする夜の壁の影法師 潮花
反省の一つ酒だけやめられず 万榮
反省をしたと鼻鼾落として米 昌男
反省を恋ひきもどし言きもどし 潮花
反省をしかりと息子に言えぬ過去 清子
反省をしかけているに左遷され 白水
反省をしたと言わず折れて出る 梨花
行いで示せと反省受けつけず 圭井堂
働かなあかんと蟻をまだ見つめ 好郎

兼題「桜」 正本小客選

二三年先の桜を宣伝し 岳詩
通動のバス桜の客と乗り合わせ 季貧
家計簿の此処は桜の咲いた時 春雄
おしまいはサクラヤウを大勢で 八九寸
はかなさはかくもと桜散つて見せ どんたく
きたなさを桜に見せに来る人間 生薑
夜桜へ一人で来たを悔いている 陽子
妻と来た桜へ酔漢よく目立ち 武助
すし詰の列車造花の駅を発ち 直人
通り抜け桜は後や先になり いわを
酒の瓶露骨に携けてゆく花見 旅風
ごみ箱の横の桜が七分咲き 多久志
水盤の桜で夫婦きりの酒 光輪
口説かれて桜並木を後になり 鶴汀
桜見へ迷子探して弁当にし 一栄
抜道のボツンと桜咲くもよし 紫香
花便りせわし五分咲き七分咲き 文秋
桜桜ガイドの指の先で咲き 紫香
ひと雨へ桜むざんにたたかれる 一鶴
桜見へ候補のマイク泣き続け 暎子
ボンボリの点いた桜で飲み直し 文蝶
満開の桜へ先客もうさわぎ 宏子
フラッシュに浮かぶ夜桜空々し 生々庵
飯御所の桜の下へ荷がとどき 阿茶
桜吹雪如意輪堂は忘れられ 六童子
桜から一番遠い駅へ用 半歩
塩漬のさくらがばつと開いてい 梅志
通り抜けしてからポット漕いでる 一十
葉桜になって仲居も散つてゆき 好郎
夕ざくら弁当がらも見て帰る 阿茶
甘党の一家今年も通り抜け 万榮
満開の去年の桜で宣伝し 幽谷
夜桜を降られミナミで呑むとき 宏子
沿線の桜へ私鉄声がかれ 昌男

日雇の今日は桜の下で昼餼 与呂志
灯がつけば桜も夜の色になり 潮花
二分咲きへ茶店は火鉢かきたる 六童子
世相どう変ろが咲くだけ咲く桜 無鬼
網棚の桜は車庫でいたわられ 柳志
卒業に植えた桜へ招かれる 圭井堂
療養を花見がてらに見舞われる 保美
ひとところ明かるく桜散り続け 水客

兼題「身分」 真鍋一瓢選

目くら判押しするだけのよい身分 岳詩
学歴の身分のなどと売残り 兼治郎
御身分が違う二人が乗る夜汽車 武助
定年は知らず判だけつく身分 無鬼
スピッツを抱いて孤独の日を送り 葉乙女
空っぽの財布で暮らすいい身分 いさむ
外交へ元の身分が役に立ち 柳志
かくし芸身分が知れた糸のさえ 井平
梯子酒養子の身分忘れかけ 六童子
わけもなく左派を嫌っていい身分 文秋
お身分がどうであるか釣り仲間 圭井堂
焼香へ黒い眼鏡でゆく身分 阿茶
番頭の身分で開く穴をあけ 梅里
別荘の持てる身分を社でねばり 白柳
身分には触れずコップ酒に酔い 一鶴
結構な身分にされて隠居老け 直人
自家用に乗れる身分で詐欺もや 無鬼
身分どうあろうとも恋捨てない気 旅風
身分まだ金に頭をさげぬなり 舟遊
御身分が違ふ辞退へ惚れ直し 武助
上下ない身分でガイド下に生き 文蝶
使われる身分は世で耐えている 牧人
向きあはばヒシヒ迫る身分の差 潮花
過去の身を秘めて日雇背をまるめ 与呂志

身分捨て切れず無口の日を送り 保美
こうならしといて身分がどうのこ 一瓢

席題「石段」 金泉万楽選

追付けば子は石段を又走り 白溪子
信心の石段軽う息をつき 文蝶
石段の上からせかすよい眺め 昌男
石段を少うし見せる大舞台 古方
石段へたもと気になる七五三 文秋
石段の下で一先ず深呼吸 清子
警察の石段重い足を乗せ 昌男
いい昔がはえ石段をふませない 満秋
石段へ鐘が鳴った花が散り 阿茶
石段へ女を意識して上り 多久志
石段の上から母へ手を上げる 淡舟
石段の敷末っ子が教えて来 与呂志
石段を凶のみくじもおりて来る 一瓢
石段が葉やおへんと月参り 狂二
石段で小休止する花吹雪 白木
石段を降りて浮世の風に触れ 保美
長い石段だけが記憶に残る旅 保美
石段は帰りにしとく女連れ 水客
石段の下でさい銭出しておき 一栄
ここが信心と石段また登り 好郎
テーブルで石段言訳程登り 一瓢
善人に踏まれ石段へこんでき 満秋
石段になって和服がちと遅れ 紫香
石段のところで開むインタビュ 昌男
石段の上も酔うてる人に見え 水客
石段の下でガイドははっとかれ 水断
裏道を知らず石段上って来 阿茶
石段を上る六人手をつなぎ 万楽

席題「スリッパ」 佐野白水選

スリッパの音バタバタと出を告げる 淡舟
水虫やないかスリッパはききなない 柳志
脱ぎ捨てた娘のスリッパも春の色 六童子
まだすまぬ手術へスリッパをのまんま 古方
急患へスリッパあわてた音でたて 葉乙女
退院が間近スリッパ派手にぬぎ 与呂志
こみいった話スリッパはかせられ 昌男
スリッパも手術案じる音になり 木堂
療養のスリッパもこれで三足目 清子
スリッパ一足に鍵かけて帰るなり 古方
スリッパのまま坊ちゃんがあがつき 満秋
麦踏んだ足へスリッパ派わぬ宿 武助
待つ身へスリッパ隣の部屋へ消え 井平
スリッパも手術こじれた音になり 好郎
スリッパでビルの畳を飛び越える 一十
借りに来て待つスリッパが冷えてくる 牧人
五六歩の廊下へスリッパ揃えられ 満秋
寝静まる廊下スリッパ提げて行き 柳宏子
スリッパを大工に貸せははきつがし 白柳
スリッパも並べ支那の池の坊 いさむ
スリッパはキッスへ協力してくれず 昌男
スリッパのままで巨神のテレビ見る 淡舟
スリッパを履く斗病は坂を越し いさむ
相客にさらのスリッパまたいかれ 圭井堂
安宿なスリッパのしめつぼさ 生々庵
スリッパで村止も振る舞 一瓢
スリッパの音ネタタイを締め直し 牧人
スリッパで降りに降りて背伸びする 圭井堂
スリッパで降りに降りて背伸びする 圭井堂
先客が脱いだスリッパ温う履き 一瓢
スリッパは母へ無暗によくさぐり 博也
水虫が又スリッパをべとつかせ 柳志
アパートのスリッパ四足夜を徹し 一三天
スリッパを履いてしまつて度胸きめ 旅風
スリッパがもたらした宿の風呂 白溪子

スリッパのまま庭先の蟹を追い 潮花
スリッパのままで怪車駅に来る 白木

席題「出鱈目」 高橋操子選

出鱈目な暮し月賦をまたふやし 文秋
出鱈目の供述へ刑事もあきら果て 淡舟
出鱈目な言葉と知っていてよろけ 昌男
出鱈目に弁護士さえも匙を投げ 圭井堂
ほんまやぞと言う出鱈目はまにばれ 狂二
でたらめとてたまた同土うまが合い 与呂志
でたらめな男が案外出世して 与呂志
出鱈目の住所書くのも旗のこと 淡舟
出鱈目に歩いて丁度駅へ出る 半歩
出鱈目と言わさぬ資料もつて居り 旅風
出鱈目が本当の恋にかわつて居 潮花
出鱈目を又信じてるお人好し 狂二
出鱈目に投げて釣れる時は釣れ 梅志
出鱈目に書いたレターにひつかかり 文蝶
出鱈目で海千山千わたりあい 生々庵
でたらめを並べ集金けむにまさ 満秋
出鱈目をまともにうけた四月馬鹿 狂二
出鱈目のうそに母親たまされる 半歩
出たらめで無いと野党もお返し 堰子
出鱈目な暮し借金ばかり増え いさむ
でたらめな恋でたらめな歳を言い 一三天
でたらめを知つてそのまま聞いて去に 与呂志
出鱈目に買った馬券が穴に入り いさむ
算盤を出鱈目はじきまけときま 一十
でたらめな帳簿は尻だけ合わせとき 一三天
真剣な恋へでたらめ毎はじめ 水堂
でたらめを言うなと首相つめよられ 満秋
出鱈目にキリキリ舞いをする刑事 圭井堂
でたらめを言うなと証提つつきける 淡舟
出鱈目に買ったネタタイよく似合い 万楽

次の間の仕度がチラとなまめいて
旅仕度フツと不安がつきまとい
ライバルが出来て交際熱が入り
車内での身の上話で交際し
交際を願う色よい返事くる
パッパツとやる交際に母案じ
しまいには交際賛状だけとなり
交際費税吏マークをチョンと入れ
いくさもうやめて野球で交際し
実際の所感マイクを持たされる
早起きの坊やに皆んな起こされる
早起きは徳と知りつつ寝坊する
早起きへ養子やからと冷やかされ
早起きの明日へ今日から昼寝する
目覚しを二つかけとき飛び起きる
早起きの趣味は地蔵へ花供え

川雑 備前支部句会 (岡山県)

三村柳風子報
ちよつぱりと残った雪へ子がたり
雪の朝病床の子へ窓をあけ
ちらついただけの雪でも飲みたがり
さしかける雪は蛇の目の恋へ解け
姑へ先手先手と氣を使い
頂上で先手は折詰をもう拵げ
村祭り香具師の口調を覚えて来
田舎者に見えな香具師が話しかけ
この土地と別れる香具師が荷をまとめ
香具師のゴムゴート並に延びて買
間違つて隣りを起す千鳥足
間違いを許せぬで親しめず
間違いもあると若氣をいたわれ
間違いの世へ正直のはが落ち

真似事がとうとう切れぬ仲となり
父さんの真似やとやら組んで喰い
嬉しさは川という字に今日も寝る
村芝居親子の別れて暮になり
飼主の顔が変わった年の暮れ

川雑 倉敷支部句会 (倉敷市)

相原一善報
香水のお蔭男を振り向かせ
停年へもう趣味で無い花造り
香水は兼用姉妹のデイト別
忙しい机花瓶が邪魔になり
警戒の気疲れ道連れ出来てから
スケジュール女の媚が変わらせる
善人の旅は思わぬ金が要り
親類の皆んな爛って疲れが出
旅の雨女中の身の上聞いてやり
香水の値段を妻は調べて来
不自然に咲かせた花の活けてあり
生活苦妻の疲れが気にかかり
香水の移り香がして浮気ばれ
恋の芽がふくらみかけたら左遷
祝杯へライバルらしい顔も寄り
香水を匂わず嫁で氣に入らず

川雑 京都支部句会 (京都市)

田中烏雀報
寶石部ゼロの羅列に食傷する
0号に甘んじ花の色を選る
お経終ってマスクをかける
白い目の中をボソボソ退場す
白バイをバックミラーに観念す
二人の橋から霧川が見えない

霧の夜まゆなでてロッシ派を自省
逆流の煙マダムは大層に烏雀

川雑 大聖寺支部句会 (加賀市)

野村味平選
遠い火事屋根でゆつり煙草のみ
屋根裏に苦学の灯今日もつき
久し振り晴れて屋根雪美しい
目印しされてる角のトタン屋根
靴だけ上げて立寝の夜行汽車
おさがりの兄のカバンは嫌いな
お土産があるよ靴を振って見せ
赤帽が先に割り込む旅靴

川雑 鳥取支部句会 (鳥取市)

河村日満選
福耳と言われて日々の事にかき
芽の出ない種が一番よい品種
出かかた芽を税務署は行って
温室に季節はずれの芽を育て
草の芽の出る順がある三四月
これも縁なり酒飲みの世話をす

川雑 米子支部句会 (米子市)

小西雄々報
天井のえさで家出の娘は釣られ
結局は家出娘も嫁にゆき
闇の夜家出の相談しかときめ
家出したマボンの折目へ郷里の砂
家出さしめしみ時代のずれを知り
家出までして恋人の尻を追い
家出して明治の父も母も折れ
目的もなく家出した春の宵

錦着て家出の罪を今日はわび
母さんにすまんすまん家出をし
公園で待てば家出と間違われ
家出とは見えぬあの娘のハイセル
裏の裏知らず家出に穴が待ち
家出した都会に夢に疲れ果て
家出した苦勞もあつたバネムーン

川雑 弓削支部句会 (岡山県)

直原七面山報
物干へ鱒鮎の恋のもどかしく
釣り糸を垂れて漁船の昼が来る
黒潮をけつて大漁の船帰る
失恋の孤独へちらつく漁船の灯
どこへ行く漁船ハンカチ振つてみる
飼い馴れた場に無情な空気銃
望郷の汽笛夜霧に消えて行き
抱擁を包む夜霧の甘い色
港町夜霧の重さをふと感じ
霧深き夜なり孤愁の灯をともし
新内の音色も濡れる夜の霧
転落の女夜霧に濡れて佇ち
霧の夜の霧のムードがさせた恋
みたされぬ心夜霧を抱きしめる
日韓の交渉待ちをする漁船
ほろ酔いの客を乗せてる鯛網船

川雑 小松支部句会 (小松市)

伊藤茶仏報
赤い爪家風に合わぬ嫁でいる
春三日どうにか家風らしきもの
朝飯は漬物だけと言う家風

淡い茶がうまい夜業の喉仏 たつ路
洗濯機フルに動いている日和 生風
打あける窓に乾いた声となり りどり葉
コンクリを犬が歩いたまま乾き 宗太郎
先輩と呼ばれて飛んだ出費をし ヨ坊
上夜は電話の合間にも叱り 茶の香
酔さめの水へ母ちゃん起される 義風
入前に立つものコッソ手を出さず 一進
四月に十二単衣でない婚儀 茶仏
難壇に部屋をとられて縮こまり 吉枝
春闘の見出しへ春を意識する 美乃留

川雑 宇部支部句会 (宇部市)

津秋六花選

怪我してる人形も並ぶ、難祭 弘道
愛情もない電熱でひなかえり 豊年
積めるだけ積んで転宅人も乗り 緑豊
一票があつて出馬の賀状くる 日郎
お嫁入りひな人形も連れて行き 千里
卒業へもう仲人の来る器量 実男

川雑 高知支部句会 (高知市)

大西迷窓選

慰めの言葉も添えて返事が来 蟬蛇
北風へついに一杯ひっかける 誠水
北風に負けぬ力士の荒稽古 守
北風をまともに恋の手をつなぎ 俊江
帰省する子へ北風の駅に立ち 翠川
貯金箱去年の重さふつてみる 醉雀
去年君今年はおいで用が足り 俊一郎
恋心郵便受けをのぞいてみ 真子
うなずいただけの返事を子は信じ 松風
返事もうしたくない程おちぶれ 迷窓

大阪通信病院川柳会 (大阪市)

橋本幸男報

のれん押す如し老妻叱れども 桃村
のれんゆえ材料吟味はまかされず 広子
好漢にのれんを外す癖があり 兎風
公に出来ぬ記事なり 秘密会 没食子
記事無しと日々平おんの寢日誌 容子
解決へ記事をはばんだ検査官 方正
市場かご片陰送って愚痴ばなし 風船堂
やきもちをしはし忘れた市場籠 春巢
妾宅にしてはみみちい市場籠 愛論
市場籠くわえた犬が先に立ち 草右
代理して馴れぬ上座に小さくいる 春雄
陣笠も故郷へ帰れば上座なり 史葉
上座空いたまま交渉まだ続き ハナ子
上座だけよけて次から席につき けい女
当然の様に上座へ課長さん 落児
上座する顔でないのに反り返り よしを
商こんたくまじ上座へ祭りあげ 竹荘
三代ののれんぼつぼつ破れて来 幸男
上座静肅別に居眠つても居らず 路郎

南海電鐵川柳会 (大阪市)

辻 圭水報

あの記事が御詫びと訂正してるだけ 貴山
騒音も絶えて都会の灯も眠り 南宗
浮浪児を白ナンパーが照し出し 句念坊
ヘッドライト二人を邪魔する気ではなく 好郎
ヘッドライトを降る雨を浮き立たせ 和郎
ヘッドライト二人の仲を妬くことく 広子
ヘッドライト洪水に似て御賞筋 狂二
ヘッドライトが近づいたまで覚えず 圭水

333 川柳会 (堺市)

川村好郎報

マフラーを買ってもらさば春になり 新石
なびかせて行くマフラーにある若さ 浪速子
マフラーを忘れた事が縁になり 句念坊
本宅へ帰すマフラー着せしぶり 好郎
マフラーがもう落さそうな千鳥足 狂二
嘘ついた顔をマフラーへうすめとき 雄声
冗談があともひびく羽目になり 夕霧
冗談にしては辻褃合いすぎる 南宗
程々にしとくと冗談叱られる 庸佑
冗談を混え素行へ釘を打ち 武助
口先の上手な女将乗ってみせ 夕霧
口先の言葉と母は知っており 句念坊
口先の事と思つて大きく出 新石
咲く時期を待たず蓄るうち切られ 南宗
子の寝顔別れる決意にぶらせる 圭水
今生の別れ松の窓があき 十悟
お互の為とあつきり別れる気 庸佑
出てゆけの別れようのと共白髪 好郎
しづちゃんは大阪商人土性骨 ゆたか
しづちゃんが大道栓を締め直し 貴山
しづちゃんが一番先に寄附を出し 一案
しづちゃんと恐妻二次会をぬけ 雄声
しづちゃんが裏門くぐる子の入試 狂二
裁判所までは夫婦として歩き 西夢
でしやばりが帰って話うまくゆき 和男
出しをばりがおだてられるとは知らず 雪山

帝化川柳会 (大阪市)

佐野白本報

夢多い人生ころんで八起きする 葉乙女
夢破れ現実負け死の門出 利武
大穴の夢化びしくも風に舞い 繁三
親と子は違つた夢の中を行き 一平
福の神いつか来るよと居候 甲子郎
福の神も居辛くなった三代目 雅堂
やらんでもうらまされもせず福の神 好佑
福の神来ているらしい儲けよう 白水

○

意見した息子とアルサロで出会い 利武
アルサロへ給料安い方が客 一平
アルサロで一万円を抜いて出し 京一樓
一本のビールではかない恋をする 雅堂
ビール一本でみんな貞操ねらうと 繁三
田舎駅ストロブへ寄る顔馴染 好祐
ストロブにあたれば上役呼んでやる 葉乙女
ストロブのまき背負うて分教場 甲子朗
ストロブの茶瓶に酒のある残業 白水

鮎と料理と酒

アベノ橋地下映画食通街

千日前 ⑦〇一四七

大劇裏

梅里の店

大萬

★大万川柳(第九十九回)を募る
兼題「女客」 路郎先生選
締切・五月十五日 句数五句以内
発表・五月廿一日 (店内掲示)
投稿は 阿倍野区松崎町三丁目
大万川柳会宛

周辺雑感



路一 郎

★破が散って、いつのまにやら緑一色のすがすがしい世界になった。しかし私はまだ宅にいる時は昼でも電気コタツをしたベッドに横たわって仕事をしているんだから全く常態ではない。

しかし今のからだの状態では五月に入ってもコタツを放せないのではなからうか。ベッドの中で読書をする。選句をする。原稿を書く。心易い連中には枕許へ来てもらい寝たままで話をする。時にはベッドの中で食事をする。斯うして少しでも疲れないようにするのが、今の私の静養法なのである。

★世の中のすべては時が解決してくれるものである。ワァワァ騒いだ地方選挙にしても当選か落選か片がついてしまう。当選者にしても、投票者にしても、これらが大切なのであるが、お互いに選挙がすんだらケロリとしているんだからおかしな話である。

★堺市の市長に、無投票で前市長の河盛安之介氏が当選された。河盛氏はその昔、市会議長時代に麒麟と号して川柳を作っていたが、今では堺市を背負っている多

忙さでそんな時間が無いらしい。しかし川柳に理解を持たれ常に援助を惜しまれないのはありがたいことだと思ふ。更に一步をすすめられて、川柳によって政治の浄化を企圖されてはどんなものであろうか。

★虚子さんが亡くなられた。八十五の高齢で最後まで俳壇の第一線で活躍されていた。いろんなことをいう人はあってもあれだけの仕事をされたことは偉いと思う。大正末葉から昭和何年頃までだったか詳しいことは記憶しないが、講談倶楽部の短詩型文学の選者を共に担当していた頃のことか思い出された。詩は北原白秋と野口雨情短歌は佐々木信綱とたしか斎藤茂吉だった。そして俳句が高浜虚子と河東碧梧桐、川柳が井上剣花坊と私で、何れも隔月交替で選んでいた。ところがこれ等の八人の選者のうち白秋、雨情、碧梧桐、剣花坊氏等は戦前に物故され、茂吉氏は戦後亡くなられたように記憶するが、戦後のドサクサ時分であつたかと思ふ。そして戦後の今日まで信綱さんと虚子さんと私の三人だけが生き残ったわけであるが、今度虚子さんが亡くなられたので、あとは僅かに二人になつてしまった。そうして歴史が交つて行くのだと云つてしまえばそれまでであるが、外の人たちは何れ

もすぐれた仕事をされているので思い残すことはないかも知れないが私はもう少し生きていて、私らしい仕事をしたいと思つている。今の私のからだで、どこまで生きられるかは疑問であるが、何んとしてでも、仕事だけはもう少し目鼻をつけたいものである。

★柳界から柳書や句集などをもつと出すようにしたいと思ふ。尤も出す以上はいいものを出して欲しい。パチモンを出すようでは川柳のためプラスにはならない。いいものを出すための相談なら及ばずながら応援もするし、代つて出版の労もとりたいと思つている。私の「新川柳鑑賞」も目下、組見本を頼んでいるので、近いうちに出るだろう。これは出来るだけ多くの人に読んでもらう方針の下に書いたのであるから川柳のPRに使うて欲しいと思ふ。

青ペン・赤ペン

▼前月号もおかげで好評だった。おほめをいただくとはやほううれし。ウチは同人雑誌ではないのだから他社の方や無名新人を問わず、いい原稿なら、いつでも広くスペースを開放する用意がある。ふるって野心作を寄せていただきたい。高度の評論よし、軽い読物またよし。いつかも書いたが、読者カードを見ると大学教授あり

高校生あり、編集の苦しみはここにありである。

▼「新川柳鑑賞」は、いよいよ本号でおわることになった。実に六七六回、約六年間連載というものだけに、哀惜に似たものを感じるが、それにかわつて「名句と難句」が花々しく次号からデビューする。たいへんなお仕事だともうが、主幹の燃えに燃える情熱は、「名句と難句」をしてまた柳界の話題をカッさらうであろう。ご期待を乞い、あわせてご愛読をねがう。

▼一瓢氏担当の「句評リレー」はメンバーがかわつていくので興味をもって迎えていただけるとおもふ。「特集・わが家の句」には自信をもって5ページをさいた。発表の句はいずれも路郎先生の選を経たもので、川柳塔や近作柳樽の佳句ぞろいである点にお目とめられたい。この特集の赤ペンにぎりながら、ほほえましくおもったのは、川柳人とはみな「お父さんはお人好し」ということである。一読破顔の川柳ホーム・ドラマだ。

▼22日夜、路郎・腹乃両先生が、中座の松竹新喜劇へ、林さん・オバサン・ぼくを連れて行ってくださった。うれしかった。ホントにたのしかった。

(三三)

習慣性のない

催眠剤

イソミン錠

12錠 150円・30錠 300円

イソミン錠 P 大日本製薬

<p>所題時 3日(日)一時 倉敷句会 週刊誌・味・勇気・悪友 白敷市水島弥生町四ノ三 梶原一藩居</p>	<p>所題時 16日(土)六時 堀句会 スリル・逢びき・要領 堺市九間町山ノ口八十摩太郎居</p>	<p>所題時 28日(土)六時 南海電鉄句会 アレキ・土性骨・喜劇 難波高架下 視和クワン</p>	<p>所題時 17日(日)午前九時 雨天中止 阿倍野句会(飛行) 途中難題 近鉄上六駅集合花園(まじ)山 交通費共百円(弁当持参)</p>	<p>所題時 17日(日)六時 にしなり句会 道徳・虫歯・柳 玉出新町通一ノ二後藤梅志居</p>	<p>所題時 12日(火)六時 みおつくし句会 工作・予想・満願 天王寺小学校</p>	<p>所題時 11日(月)七時 五造句会 意外・横着・当然 市電大造南百米 大阪信用金庫</p>	<p>所題時 9日(土)三時 333句会 ハクツ・木神・卯 堺市老松町三丁目島野工業KK</p>	<p>所題時 4日(月)六時 淀川句会 観天・得下・出世 十三西之町五丁目東淀川郵便局</p>
<p>お願 十五日の切は守ってください。 日と願と所はハッキリ書いてくだ さい。</p>	<p>所題時 弓削句会 月末切 妻・独り彩・大笑い・子守 久米郡久米南町下町四五四 直原七面山居</p>	<p>所題時 25日(日)切 高知句会 抜ける・三日月・道楽・物動 高知市道下前湖月 川省也居</p>	<p>所題時 17日(日)一時 宇部句会 商魂・華容・喫茶店 宇部市港町 国鉄職員会館</p>	<p>所題時 16日(土)夕 京都句会 中毒・寝てる・真箇 四条祇下 仲源寺</p>	<p>所題時 15日(金)六時 西宮句会 鯛・同伴・うっかり 阪神西宮駅北口スク 労働会館</p>	<p>所題時 10日(日)一時 米子句会 ハイキング・量産・くらむ 米子市公会堂 日本蘭</p>	<p>所題時 10日(日)二時 明和研究句会 そよ風・柱・凡人 西宮市鳴尾町 新明和興業KK</p>	<p>所題時 9日(土)夕 備前句会 雲・母の日・別れ・餅・春の宵 横山一吉居</p>

さやま遊園再開記念 4月1日~5月31日

子どもカーニバル

主催 大阪日日新聞社

主な施設
こども館・バードガーデン
バラ園・おたのしみ映画館
猿島・幼児の家・勝棚
スポーツランド・遊戯彫刻
野外劇場・野外テニール

さやま遊園前駅下車急行停車
入場券付往復乗車券180円

さやま遊園 南海電車

入門も奥義も川柳雑誌から

スタート
着心地のよい

O.S.K.の レディースード

大坂商店
大阪府東区船場一丁目エネ地
電話番(94)1745-5563番

printed in Japan

(禁轉載)

川柳雑誌 第三十四号

B列5号 毎月一回一日発行
定価 六〇円 (送料四円)

半カ年 三八四円
一カ年 七二〇円

昭和三十四年四月廿五日印刷
昭和三十四年五月一日発行

大阪府在野地区内方代部五丁目二五番地
編集兼発行人 麻生幸二郎
大坂市在野地区内方代部五丁目二五番地

発行所 川柳雑誌社
電話 大阪(市)六〇八〇
郵政口帳七五〇八〇

募 集

課題吟募集

近作柳塔 (雑誌十号以内) 麻生路郎選
川柳塔 (評論・研究・感想其他) 麻生路郎選
文 章 (評論・研究・感想其他) 麻生路郎選

上他 品人 (十号以内) 松江梅里選
生 品人 (十号以内) 後藤梅志選
靴 ヌラリ (十号以内) 長野井蛙選
生 品人 (十号以内) 須崎豆秋選

五月十五日締切

投稿規定
▼ 投稿は各種必ず別紙に認め、住所氏名雅号を明記する事。
▼ 「近作柳塔」は一般作家の雑吟を募る。
▼ 「課題吟」は誰でも投稿が出来る。
▼ 「川柳塔」の投稿は不刊会員に限る。

昭和廿二年七月一日 第三種郵便物認可
昭和三十三年五月一日発行（毎月一回一日発行）

編集者 川柳印刷人

定価 二部 発行所

川柳雑誌社

大阪市住吉区西成五丁目二五番地 電話大阪六〇八八一

送料 口本大阪七五〇五〇番

定価六十円（定外四円）

不眠 昼間療法!



昼間の服用だけで、夜自然に安眠
ができ、日中のイライラや不安感
もとれ、明朗・能率的な生活を送
れる習慣性のない安全な新薬です
スッギリした頭で作句の為にも!

晝はすつきり 夜はぐつすり

日中のイライラもすぐとれる

ノクタン錠

東京・大阪 山之内製薬株式会社 福岡・札幌



お酒泣かすな
胃の用心!

☆愛酒家の総合保健薬☆

ネストンゴールド

30錠 200円・100錠 500円・12錠入新型容器 100円

お酒をのんで悪酔、二日酔をしたり胃を害したりし
ては折角のお酒が泣きます。ネストンゴールドはお
酒が美味しくのめてしかも酒後の精力を増強します

G1

川柳はわれわれ庶民の偽らざる声である。
絶叫・嘆息・嘆声・嗚咽——そうしたもろ
もろが十七音に圧搾された諷刺と諧謔の短
詩型、それは伝統的であると共に常に革新
的であるその川柳がいかんして發生し、経
過し、今日に至り、将来に動くか、しかも
その作り方は、味わい方は——以上を最も
明快にわかりやすく、斯界の第一人者たる
著者が答えているのが本書である。

取次所 川柳雑誌社

麻生路郎先生著

川柳とは何か

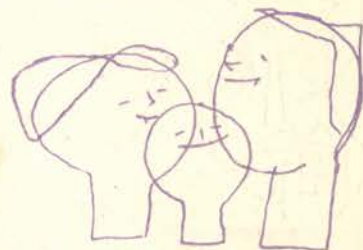
—川柳の作り方と味い方—

送価 二五〇円
三三〇円

至文堂

東京都新宿区払方町27 振替東京29507

一家そろつてホーライ党



廣東料理



大阪なんば・TEL ④551—2